

京古本や往来

梅原 猛先生に聞く (三)

前号では梅原猛先生（京都芸術大学学長）の学問の土壌と思想の風土、そして京都との関係についてお話しを伺いました。今回は学問の視点と資料性ということについてお話しをすすめていただきました。

先生の今までのお話しを伺っておりますと、それでは本はもう各方面のものが……

「だから本はまあ、実に雑然としていて、図書館くらいはありますよ。女房はこんな本ばかりあって、家は狭くなるし捨てちゃえ／＼ってやっていくけれどね（笑い）。だけどまあ、若い時は貧乏であまり買えなかったけど、哲学の本は多少はある。それから今度は仏教の本をバァーッと集めて、古代・歴史・文学の本を集めて、

それから言語の本。最近はいヌや沖繩の本を集めている。今徳川のことをやり始めていて、徳川の本も集めてね。

だから本はね、ぼくの思想の遍歴を代表しているわけだけどね。ぼくは関心のおもむくままに本を買って、決して大系になつたらんですよ。だから少し恥しいんだな（笑い）。

「私たち古本業者に對して、何かご注文のようなものはありませんか？」

「やっぱり東京の方が本は多いな。京都は不自由ですよ。東京にいとね、高いですけどね、一寸云うとすぐ届けてくれるからね。まあ、なか／＼京都はしんどいところがあるね」。

——流通体系が全てにわたって東京中心になつてしまつています

季刊
第31号
京都古書研究会
発行
〒604 京都市中京区
東洞院六角上ル
京都府古書籍商業協同組合内
振替 京都 0-22132
年間購読料 500円 (送料込)
頒 価 150円

ね。古本の世界でも、どうしても東京集中という現実があります。

「ぼくは今徳川をやつてるんだけどね、結局そうすね、東京の本屋のほとんどは京都から出ているんですよ。ところがね、大徳寛政ぐらいから逆転してくるんです。黄表紙が出て浮世絵が出てくる。それまでは大体西鶴流のね、浮世草子なんかね、これは京都から出して来てね。そして東京でも出版社を作つたのは京都の出版社なんだよ。鶴屋喜左衛門とかね。全部京都から行つてるんですよ。ところが、向うの新しい黄表紙なんか出て来たんだね、江戸独自の文学なんかね。それから浮世絵・江戸錦絵なんか出て来た」。

「そういうものが出てくるとね、京都はもうついて行くことが出来なくなるんだな。京都の本屋の歴史を一本調べたいと思つていらっしゃるけど、寺町二条、あのあたりに沢山本屋があつたんだよね。あれはどうなつたのかねえ、その後。結局つぶれるか東京へ引越すかどつちかになつた。そして東京

の支店になつてね、それとも京都をやめてしまふかどつちかなんだな。それが大体十九世紀というものを境目にして、完全にもう主導権が江戸に奪われてしまふ。そして今度はこつちが支店になつて江戸の本を売るといふことになるんですよ」。

「大体その動きと芝居役者の動きと同じなんだな。京都の芝居は衰えるけど、大阪芝居は程度が高かつたんだ。江戸の芝居は団十郎ね、荒事の乱暴者でね、細かい人情物はどうしても上方役者でなければ出来ない。だから女形は、色事師はだいたい上方出身なんだけどね。それが江戸へ行つてね、ところが江戸の方が給料が高いので江戸に定着してしまふんですよ。そうするとね、最初は上方で江戸役者がやつても割込むことが大変なことだつただけだね。文化文政へんになると、もう江戸役者っていえばね、大阪へ来たらず少端役でも大人気になる。それ位レベルが違つてくるんだな。こういう芝居の動きと出版の動きとは、ほぼ同時代だつたんですよ」。

だから、出版の問題は可成り根が深いね。たんに明治以後ということではなくて、寛政期を境にして文化文政ぐらゐから出版界の中心は東京になつていくという感じだな」。

——先生がお仕事をなさる時でも京都だと、やはりご不便を感じ

——本年もよろしく—— 京都古書研究会加盟店

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|--|
| 赤尾 照文堂
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 石川 古本店
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 井上 書店
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 其 中 堂
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 京 極 堂
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 沢 密 堂
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 三 密 堂
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | シルヴァン 書店
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 大 善 堂
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 竹 岡 書店
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 谷 方 書店
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 東 山 書店
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 萩 外 書店
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 福 田 書店
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 藤 井 書店
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 文 庫 堂
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 文 庫 堂
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 八 木 書店
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | 山 崎 書店
中京区西門外下町一五八
電話二二一五八八 | （株）臨川書店 大阪店
大阪市北区大淀町一丁目六番二号
電話六三三三三三 |
|-----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|--|

られますか？

「そうだね、まあ、国会図書館みたいなものはないしね。ぼくはよくリコピーを使うからね、ちょっとしたもののコピー一つとるにしても、向うへ頼めばすぐ送ってもらえるからね。」

「私、いろんな役をするようになると、まず最近東京が日本の中心になって行くのがよく分つて来ますね。まあ、学者は必ずしもいわゆる機構に属していないから京都の学者でも生きて行けるけど、それ以外の組織でやる仕事は、どうしても東京中心でなければ生きて行けないような、そういう状況をひし／＼と感じるね。」

「そういう中で我々のような、ある意味ではマイナーな立場で生きて行ける古本屋が、もう少し京都で頑張っていこうと思っているわけですがなか／＼……」

「うーん。わたしよく分らんのですけど。学問のね、根拠地が出来るとまた違ってくるんじゃないかと思えますよ。矢張り学問や芸術を盛んにして行くことだと思いますね。需要がね、あればまた集って来ますからね。だから需要はね、学問が盛になればおのずから生じてくる……」

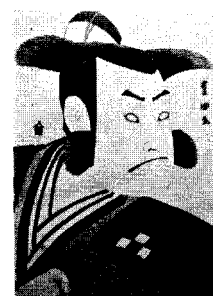
「しかしなんだね、リコピーが出来たから、本屋は大打撃だろうな。古本は高いしね、まあぼくら——便利だけだね。」

「そうなんです。必要などころだけコピーすれば研究者にはそれでいいんですからね。記念論文集のように沢山の人が寄稿しているものは売れにくくなりまして。打撃は大きいですよ。」

「だから、もし本屋さんが何か出来るとしたら、例えていえば、黄表紙みたいなものは一時は只みたいものだったんだ。ところが、今探してもなか／＼無いし、あつても非常に値が高くなっている。そういうものをね、何か予見的な価値をもつてね、どこかの本屋さんがキチンと買っておくとかすればね。」

とにかく、今はダメだけどマアやつとくかというんでね、ネズミに喰わせるぐらいの積りでね、やつといいたらだいぶ違うんだろうな。そればかりでなくて、日本の文化の為にもなつたらうしね。そんなようなものをね、古本屋さんもね、今は価値がないように思うけど次代に必要なんだと思う本をストック出来ないものだろうか。そういう予見したいものを持つ必要はあるだろうね。まだぼくらの気がつかないものって一杯あると思う時代がたつたら血眼になって探さなければならぬものが、現在二東三文で売買されていたり、あるいは故紙として処分されていたりしている、そういうことは沢山あると思うな。」

「浮世絵でもね、まだ実は価値評価が定っていないんですよ。基本的に浮世絵っていうのはね、薩長が天下をとったんでね、江戸の文化を不定しければならなかった。江戸の文化というものはつまるんのやと。つまらんものを代表するものは何かという、歌舞伎であり浮世絵である。絵草子や浮世絵はとくに時代を終ったんだということ、ほとんど価値がゼロになるんやね。ゼロになるということは、当時の政治的な権力者の嗜好だったんだ。民衆もその方につくわけですよ。」



写楽は豊国か？ 上段二図は写楽・下段二図が豊国。しかし値段には格段の差が……
(「浮世絵三百年名作展」図録—日本経済新聞社—より)

その価値評価が日本に返って来ているわけですよ。だから浮世絵の価値があがったわけだ。彼等が一番よく分るのは何かというと、美人絵ですよ。それからまあ、風景画ね、富士山なんかの。富士と芸者があるという形で日本が紹介されて、向うで評価されて印象派の連中に影響を与えた。外国で評価されると日本でもヘイッってんで評価する。だからまあ、歌麿と北斎を中心にバァーッって浮世絵が値上りしたわけですね。ところ

の時代だね。歌川派のものはいっばん明治に近いし、これこそ類魔的な文化なんだと。」

「大体江戸人というのは芝居に夢中になって、結局現実のことはどうでも良かったんや。現実と夢の区別が分らんようになったんだとぼくは思いますよ。あんな奇妙な時代はないと思う。黒船が来てどうだこうだと云つてもネ、そんな黒船みたいなもんはどうでもいいんで、まだ岡十郎がどうなるかの方が問題だったんだ。だから田舎の薩摩とか長州とか会津とか、そういう連中だけが本気になったわけや。江戸文化の影響の濃い範圍は全部魂が抜けてしまっていたわけですよ。それだけ彼等は美的享楽者だったわけだけど、そのシンボルが浮世絵であり役者絵ですよ。だから役者絵は評価が低いんでね。」

「そこへもつてきて写楽だけですね。これはクルトの目を受け入れてね。あれは芝居絵が分らんから肖像画と考えたわけやね。だからヴェラスケスやレンブラントやなんだかんだ肖像画をやつて、写楽はどうだからと……」

「ぼくは写楽＝豊国説だけど、写楽と豊国は全く瓜二つ、全く同じ絵があるんだよ。一方は写楽と名がついて一方は豊国と名がついているわけですよ。ところが写楽はクルトに賞められたから、これはものすごく偉いつてんで高い。一

枚何百万円、一方全く同じ豊國が精々数万から数十万円まで。そして写楽と似ていないちよつとあとから描いた豊國は数万円で買える。この値段というのはね、ぼくは矢張り日本人が自分の文化を自分の価値で見ないということだと思ふ。ぼくは豊國をだいたい集めたんだけど、自分で書いて、高くなるかな(笑い)。

——値段は評価を反映しますからね。
「だから、そろ／＼別の価値評価を見付けていく。これから歌川派のものなんかは高くなつて行くと思うね。徳川幕府の末期はこれからウンと研究されると思うからね。今ではまだ国貞なんか数万円、同じ時代で広重だけは高いわけや。外国人の見る目で高いわけや。教科書に出てくるから高い。絵の価値としては、ぼくはどうしても国貞の方が広重よりずっと良いと思ふけど、それじゃなくて東海道五十三次で皆よく知っているから高いということですよ。そういうことが沢山ある。黄表紙なんかでもそうなんです、只みにたいにされていた。そういうのがこれから重要になつてくるんじゃないでしょうかね。」

——見方を変えればこうなるといふことでしょうかね。
「ぼくのやつているアイヌ研究でも、今まではアイヌは異文化として見ていたから。アイヌ文化

を研究しても減じゆく少数民族の研究にすぎないというんではたいして意味がないんで……。ぼくはそれこそ一番古い文化を保存しているんだと。徳川時代の人間はそう考えていたんですよ。明治になつてだん／＼日本の帝国主義がすすんで、日本が侵略をはじめるようになる、あんなアイヌと一諸ではかなわんという気がどつかに働く。そうなつていくと、朝鮮を切る中国を切るアイヌを切る、そして大和民族独自の国粹主義がはじまる、そういうところと結びついているんですね。」

「アイヌの資料を探して歩いているとね、もう昔にゴミとして捨ててしまつていとかね、そんな話ばかり聞かされるんやね。どうして保存して置いてくれなかつたか、つて云うと、図書館あたりへ持つていってもそんなもん困ると……。持つて行くところがなくてゴミとして捨ててしまつたとかね。」
「出版社だったら新しい価値を見付けて出版することは可能だろうけど、古本屋さんの場合はね……。だけど、ひよつとした別の価値を持つていけるのではなからうかと、価値のプラスの面とマイナスの面とをね、マイナスは入つていけるけれども別の価値の可能性があるのではなからうかというものをね、見付けられたらいいんじゃないかと思ひますよ。そういうことが断えずやられていけばね、灰燼に帰

した沢山の文献や資料が保存出来ていいんじゃないだろうかと思ひますね。一つの本屋さんでは無理だろうけどね。」

——予見をもつて本を集めるといふことは我々古本屋にとつての一番の課題だとは思ふんですけどね。私たちはどうも後追いをしてしまふんです。仕掛人はむしろ学者の方で、何かやつておられるようですがお手伝いいたしましよつというかたちで資料を集める、そう言うことはやれるんですけどね。

「アイヌでもぼくは今探しているんだが、もう無いですよ。今迄に集められた資料は、あちこちに眠つていゝんだけど、眠つていゝその何倍も既に忘れられ捨てられて来ているんだね。アイヌの言葉も忘れられていゝし、神事もやらなくなつたりしてね。どうしてもつと新しい目で見えて採録したり保存したり出来なかつたのかと思ふと悲しいですね……。」

——そういうことはいゝんな分野であるんでしよつね。ところで京都に限つて云つた場合、何かありますでしょうか？」

「公家といふのはどうなんだろうね。公家の文化といふのは明治時代に、まさに大きな変化のあつた分野だけど、あまり研究されていゝんじゃないかな。公家さんは皆東京へ行つちやつたからね。冷泉家なんか残つていゝけどね、

古いところのものは多少残つていゝけれど江戸期の公家文化といふのはまだ解明されていゝないんじゃないかな。そういうのはまだ出てくる可能性はあると思ふ。ホラ、竹田の子守歌なんていうのが出てきたでしよつ。あれなんかもうろ／＼調査しているうちに出来たものでしよつ。そんなふうになつてゐるんだと思ふ。」

「古今集の古い注釈書なんかね、片桐(洋一)さんなんかやつていゝけど、江戸以前の注釈書なんか国学者は採用しなかつたんだ、バカにして。女が蛙になつたとか蛙は人間の怨霊になつたもんだとか、そんなバカなことてあるものかといゝんだね。ところが蛙は女が化けたものかといゝのは、

アイヌの云い伝えにあるんだ。だから古い古今集の注釈書なんかは、あるいは民俗学の資料として使えるかも知れないんだ。江戸以前の伝承のね、そういうことだつてあるんだ。」

——そうですか。私たちはすぐ専門だと分野別なんつていうことに拘つて本を分類してしまふクセがあるんですが、同じ資料でも新しい視点をもつて見れば、全く別の研究に役に立つということなんです。貴重なサゼスチョンをいただきましたありがとうございます。

(文責 久保田)
聞き手 久保田厚生(臨川書店)
竹岡忠郎(竹岡書店)
前田 司(キコオ書店)

「総合古書在庫目録・第四号」

申し込み受け

来る五月二日より三日間古書研究会主催で岡崎公園内の京都市勧業館(本年より二階会場)にて「第三回春の古本まつり」を開催。

併せて「総合古書在庫目録」の第四号が四月中旬頃発行される。B5判150頁以上、写真版多数の豪華目録。販売価格は五〇〇円(別に送料二五〇円)であるが、本誌の定期購読者で左記期日までにお申し込みいただいた方には無料でお

送りします。ハガキに送り先を記入してお申し込み下さい。

申し込み期日

昭和六十一年三月三十一日

◎申し込み先 京都市中京区東洞院通六角上 京都古書組合内古書研究会「目録」係



特選 総合古書在庫目録
本誌定期購読者にはこの目録を無料進呈

ABAJ主催 公開講演会

「本のむし害対策と修理

—和装本と洋装本—」 拝聴記 (上)

洋本の酸性紙劣化の問題と共に最近の住宅状況の変化から蔵書の被害も多様化してきた。そこでABAJ(日本書籍商協会)によって愛書家のために「本のむし害対策と修理」というテーマで公開講演会が東京の文化信用組合会議室にて開催された。古書研からはシルヴァン書房岸本征夫、キコオ書店前田司が参加した。そこで二人の講義ノートから拝聴記と題してまとめてみた。愛書家の参考になれば幸いである。

さて講師は国鉄技術研究所の山野勝次氏、宮内庁書陵部の古閑豊氏、国会図書館製本課の金子富保氏の三氏。百人入りの会議室は席も足りぬほどの聴講者に主催者側がうれしい悲鳴をあげる大盛況、それほどに「本の害」に対する関心の高まりを感じさせられた。

先ず山野先生が蔵書の特に虫害に關して、御専門の物理化学の立場から、スライドを混えて具体的に講演された。

書籍や古文庫に被害を与える昆虫、所謂、害虫の主なるものとして我々はすぐ、シミを連想するが、

実際には驚く程多くの害虫が存在する。その最大の害虫はシバンムシであり、その種類に古本シバンムシとザウテルシバンムシがあり、前者は東日本に多く、後者は関東以西に棲息する。その他に、シミ、ゴキブリ、シロアリ、カツオブシムシ、ヒラタキクイムシ、チャタテムシ、ナガシクイムシ、ヒョウホンムシ、イガ、ジガバケ等がある。それらの特徴被害等を下記別表に記した。

この様な本の害虫は、どの様に予防できるであろうか。

先ず保存する建物には火災等の予防からも鉄筋造りが望ましいがその弱点として特に冬季には内外の温度差による結露が生じ易いので、内側を板張りにして間隔をあけ、空気流通を金属性の細い管によつてはかり、内部の空調、湿度、湿度を出来るだけカビ、害虫の繁殖しない状態にすれば良い。では予防に必要な温度とは、冷い程良いが、実際には大体書庫温度を16℃、湿度は40～65%位が理想。あまり乾燥すると、本の装丁上も良くな

い。又極端な低温の状態に本を晒さない方が良い。

それに加えて防虫剤を用いる。一般には、樟脳、ナフタリン、パラジクロルベンゾールが使用され

ているが、そのうち一番適当なものは効果が大きく薬害の少ない点からみてパラジクロルベンゾールである。殺虫には40%を使用するが、防虫のみなら半分でも充分効

果はある。ただし昇華(気化)が早いので二ヶ月に一度位加える様にすること。また重要注意点は、絶対に他の薬剤と混用しない事である。例えば樟脳とパラジクロル

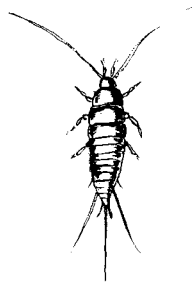
科目・種類	体長	分布	被害・特徴等
フルホンシバンムシ ザウテルシバンムシ ケバカシバンムシ	3 mm	東 日 本	東西横綱級の害虫。1mm位の穴をあけ、深部に進む。排泄物により頁がくつつく。食痕を残す。
	4 mm 5 mm	関 東 以 西 全 国 的	
西洋シミ ヤマトシミ マダラシミ			本などの表面のみを加害。肖像画、軸等の表面を食し、画面を消すので、生きた消しゴムと云われる。
クロゴキブリ ヤマトゴキブリ ワモンゴキブリ チャバネゴキブリ	25mm 40mm		クロゴキブリが特に本の害虫。表面を加害する。皮装本の表紙も食す。また糞による被害も大きい。
イエシロアリ ヤマトシロアリ		温 暖 地 方 (北限は神奈川県) 全 国 的 (北海道を除く)	もともと立木、建物を加害するが、その折と一緒に本も加害する。社会性昆虫で50万～100万匹で構成する。地下にトンネルを掘って家屋に侵入。 ヤマトシロアリは湿気を好むが、イエシロアリは渴いた所でも自ら水分を運んで棲息することができる。被害度大きい。
ヒメマルカツオブシムシ ヒメカツオブシムシ			革をつかった本を加害、他に手皮、毛織物も害す。
ヒラタキクイムシ			ラワン材、合板、竹、特に広葉樹、澱粉含有30%以上の木材を加害。幼虫が5月～6月頃に穴を開け飛び立つ。その折出口に本があるとそれも加害する。極端に云えばラワン材に接触しているレコード盤でも喰い破る。
チャタテムシ			紙のカビ類を好んで食べる。体長小さいので被害は小。
チビタケナガクイシムシ			竹の代表的な害虫。雑食性の為、竹に接触している。
ヒョウホンムシ			本や標本など乾燥物を加害。
イ ガ			動物性、乾燥した皮革表紙の本を加害。
シガバチの類			巣造りに泥を運び、本に附着汚損。(間接的被害)
ハエの類			排せつ物で汚損。(間接的被害)

(上記の表は講演にもとずいて作成しましたので不十分な点ご了承下さい)

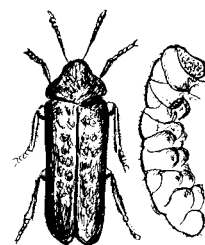
ベンゾールを混用すると化学作用で溶解、液化して、書物を汚損する。最近これを合成樹脂材に包みこんで気化させるようになったものが販売されている。また薬品を紙に含浸させた防虫紙もあるが直接本にはさきこむのは本を汚損するので感心した方法ではない。

実際に虫害にあった場合はガス状の薬剤で処理するのが最も効果的。直接被害物にかけないで燻蒸をする。建物全体や部屋、又は被害のある部分を大きくシートで被覆する方法や、メバリで密閉する方法、或いは部分的に包み込む方法が採られる。一昼夜、そのままの状態にしておくと大体駆除する事が可能である。これは常圧による方法であるが、別にバキューム

チャンバーと呼ばれる減圧燻蒸方法がある。40〜60mmHgの圧力で行なうが、四時間位で細胞的殺虫効果を著わす効率の良い方法である。薬剤としては臭化メチル、弗化サリフリンの二つが適している。浸透性が良く、薬害が少なく。又卵に対しても効果があり、爆発性が少ない。只、欠点としてカビに對



しみ
Ctenolepisma villosa



ふるほんしばんむし
Gastrellus immarginatus

しての効力が弱く、また毛皮、皮革、ゴム製品が有ると悪臭を放つ点である。尚臭化メチル87%と酸化エチレン13%を混合した改良型はカビと昆虫の両者に効果があるいづれにしてもこれらの薬品も多用すると人体に對して毒性があるので注意せねばならない。

(次号につづく)

右図は西村宰爾「紙魚の冤罪」(本誌第二号一昭和五十三年)より転載

大阪・津田書店

津田喜代獅さんをしのぶ

松尾 尊 允

十一月一日は私の誕生日である。前後雨声を聴き、これでは恒例の古本村も流れるかと案じたが、明ければ青天がのぞき、前々日来のギックリ腰をいたわりながら百万遍に向かった。五十六歳を迎えた私としては、いまだ朝の十時前から、しかも腰の曲がった姿で会場に顔を出すのも面映ゆいのだが、

日頃、昔日のような古本屋めぐりを怠っている罪はろぼしのつもりである。村役場のテントをのぞくと前田司さんがいる。五年前の春、ボストンを去る前日に、突然現われた前田さんをハーバード大学周辺の二、三の古本屋に案内したことがある。先頃じくなられた大阪の津

田さんもご存じかと聞くと、市におけるフリ手のみごとだった思い出を語られた。前田さんは私より十何年は若いはずだから、ぼぼその年の差だけ長く私は津田さんを知っていることになる。

まだ二十代の私は、機会があれば大阪や神戸に出かけて古本を漁ったものである。ある日阪急の即売会をのぞくと、魅力のある本が安く並んでいるコーナーがあった。居あわせた婦人に店の所在をたずねるとそれが津田夫人で、これから帰るという夫人について萩の茶屋まで行ったのが最初であった。それからは大阪に行くことに立

寄った。釜崎の一角だから、客の多くは労働者風であった。場所柄古本商売も大変だろうと思うのだが、主人も夫人も、ときたまみかける娘さんもテキパキと客をさばいておられた。

とにかく安い店だった。主人の話では、市の翌朝には店の開く前に行列が出来ているということだった。京からわざわざ行列に加わるわけにも行かぬのだが、にもかかわらず、何時行っても何かあった。

主人はいつも、せっかく遠方からみえたのに、めずらしいものがないですみません、などといった言いがた、二、三割方値引きをしてくれるのであった。読売新聞の「昭和史の天皇」の揃いなど、何千円かでよいということだったが、とても京まで持帰る元気がなくて辞退したことがある。宅急便がでる前のことである。

主人は戦前からの大ベテランだから、古來の時価は百も承知なのだが、あこぎな値段をつける気になれなかったのだろう。安く仕入れて安く売る方針に徹するものと貝受けられた。

主人には愛蔵本があった。ある日「直言」の第一巻分を示された。週刊「平民新聞」の後継紙は周知のごとく「直言」の第二巻で、復刻されているが、第一巻は稀本といつてよい。津田コレクションは相当なものだと推測された。

弟さんは著名なる近世史家津田秀夫教授であり、甥には共産党文化部のリーダー津田孝氏がいる。知識人一家の主人公が、釜崎の一角で悠々と古本業を営むところに津田さんの風格があった。

大阪より東京が近くなった私が、最後に津田書店をたずねたのは三年くらい前になるうか。店主の脇の棚に高橋五郎「社会主義治罪」矢野文雄「社会主義全集」の二冊が並んでいた。この店にしてはめずらしく高値がついているが、市価の半値以下である。主人に聞くと、少しづつ所蔵本を手放しているとのこと。結局この二冊が形見のようなことになった。

その後津田教授より、主人の健康状態が悪く、店を閉めているという話をうかがったが、いつかは再開されるものと信じていた。十月号の「古書通信」で訃報を読み愕然としたところに、十月十九日の「朝日」は異例にも九段ヌキの記事で、労働者に愛され、信頼された七十七歳の古書店主の死を改めてつたえた。

もう大阪に行く楽しみが無くなってしまった。眼を閉じれば、あのこみあった書店の奥にどっしりと座った白髪の温顔が浮かんでくる。津田さんの冥福とともにご遺族の平安をいのる。(十一月一日夜)(まつお・たかよし 京都大学文学部教授)

聞きがき

「昭和古本販売史」(五)

文庫本の隆盛

現在、文庫は雑誌、コミックと並んで出版界の三種の神器と呼ばれている。ゼロ成長という戦後かつてない不況に喘ぐ出版界でも文庫の伸びには目を見張るものがある。庶民の生活は収入増を支えるベースアップもなく加えて過重の税金が、という二重苦の購買層が廉価本に向ったということならばキビシイ客観情勢がもたらした文庫時代といえよう。文庫は古典の普及版・廉価版というのが一般の常識であるが、各出版社がこの文庫の普及率に目をつけないはずはなく、現在は始めから文庫本として書き下されるものもあり全集ものなども出版されている。又価格の廉価性という問題だけでなく、ライフスタイルの変化、時間に追われる現代人にとつての読書は、かつての書齋型から、通勤、通学時にポケットから取り出せる文庫の手軽さが必要で、ここにこそ文庫ブームを支える基盤があるように思われる。

さて日本の文庫の歴史を調べてみると、現在文庫というと文庫判の本というのが通説になっているが、文庫という言葉が使われだした明治末年には、叢書という意味が強くあったようである。だからこの時期に文庫と銘打たれてものは様々な大きな形が有った。

日本の文庫のルーツは、明治36年に出版された「富山房袖珍名著文庫」だといわれている。「袖珍」というのは袖の中に入れて持ち運べる本という意味である。この手の形式の本自体は昔から有ったが、後に小型本のイメージとして定着した文庫という名称を使つたのはこれが最初だと思われる。

残念ながら富山房袖珍名著文庫は手元に在庫していないが、明治43年に三教書院から出版された袖珍文庫があるので発行の主旨を引用させていただく。「明治の文明は、漸く膚浅の境を脱せんとして居る米を食ひ肉を食へば生きて居られると云ふ陋劣な時代は去つて書を以つて靈を養はねば生きて居れぬ」と云う上の時代に入った。現下の読書界は一方に泰西の奔放な新思想を味ふと共に一方に自国の過去に於ける産物を新しき眼を以つて窺ひつゝある。この後者の要求に応じてここ数年來盛んに古書の翻刻が起つた。祝すべくはあるが、

その翻刻書はいずれも大冊で装釘も立派である為に高価であり且つ大抵は予約出版法を取るために講読が手軽く出来ぬのが欠点である。泰西にはカッセル、レグラム等云書肆があつてどんな名著でも極めて廉価に販売する。屋根裏に住む貧書生でも自由に購読し、紳士も携帯に便なるを喜んで旅行でもする際は必ずこれを袖にする。幣院が袖珍文庫を発刊するのは日本のカッセルとして立つたのである。」これを読むと廉価であり買いやすい小型で手軽に読め知的向上心を満足させるものという文庫の誕生する必然性が如実に語られている。時代は違ふが岩波文庫の表紙裏の「岩波文庫発刊に際して」にもほとんど同様の主旨が記されている。

明治末年から大正初期にかけて他に、学生文庫(至誠堂書店)、綿葵文庫(吉川弘文館)、俳書堂文庫といったものが出ているが、この時期の文庫は古典ものが中心だったため限られた読書層しか獲得できず、文庫ブームと呼ばれるまでには至らなかったようだ。古書という側面からみても内容的にはあまり重要なものとは思われないが、後に文庫のイメージを確立した岩波文庫その他の手本となつたのは間違いないようだ。

明治44年(大正9年)にかけて大流行したのが少年向けの講談本、立川文庫(立川文明堂)で今日の劇画の流行を思わせるものがあつたといわれている。ところが御年輩の方に伺うと立川文庫一冊二十五銭はあまりにも高く、当時一銭が普通であつた一般家庭の子供の小遣いで買える値段ではなかった。一冊の本を何人も借りて読んだそうだ。のちに一冊五銭くらいで紙質の悪い児童向けの文庫が何種か出版され、もっぱらそちらを愛読されたとのことである。大正期から昭和にかけて各種の少年雑誌や少女雑誌が出されていたことからみると低年齢層の購買層がかなり増加していたようだが、文庫や雑誌でも当時の少年少女たちにとっては高嶺の花だったというのが実状のようだ。

古書としてみると立川文庫は、昭和30年前後から少年少女もののを蒐められる方が増え探望されているのに、文庫本のもつて小さくという宿命から残存部数が少なかり値上りしている。なかには一冊五〇〇〇円というものもあるようだ。

明治期の文庫が国文学中心であつたのに対し、大正期に入ると海外思想・文学への関心が高まってきた。それに応えたのが大正2年に発刊されたアカギ叢書で、一〇〇頁前後のダイジェスト版であつたが、定価一〇銭で売られ大流行した。その影響で後追い企画がかなり登場したようだ。この時期までの文庫は大きさも形も様々だが、アカギ叢書は現在の文庫判にほぼ近いもので、モスグリーンの薄表紙であるが、かなり洗練されたし

ぶい装釘の本であつた。



明治に刊行された袖珍文庫(三教書院)(右)と大正の刊行アカギ叢書(左)

さていよいよ一般にいわれている第一次文庫ブームの時代となるが、その先頭を切つたのが昭和2年に32点の書目でスタートした岩波文庫である。岩波文庫は「発刊に際して」に記しているように「分売を許さず読者を繋縛して数十冊を強うる」円本全集に反発して、良書廉価普及の精神で発刊されたといわれている。体裁だけでなく編集態度もレクラムを手本として半世紀以上も刊行を続け、現在では四千点に近い書目を誇っている。「文芸・哲学・社会・科学・自然科学等種類のいかんを問はず」と

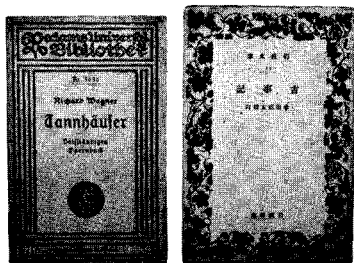
いう方針で始められ続けられてきた岩波文庫は年々向上してきた教育環境により増大した広範囲の分野の学生、学問的向上心を持った人達の熱烈なる支持を獲得した。終戦直後の本不足の時代には、東京神保町の岩波書店小売部では発売当日には長蛇の列ができ、先着順で岩波文庫を売ったそう。それでもすぐに売切れとなり、地方の新刊書店などでは配本もされないという状況で、定価の二・五倍から三倍の値段で岩波文庫を売っていた古本屋もあったということだ。

現在の古書価は刊行書目が多いため品切れ書目が多く類書の少ないものはかなりの古書価で売れている。一冊一万円を越えるものも何点がある。数年ほど前から、年2回、30点ぐらいづつ復刊されているが、まだまだ復刊を待たれる書目が多い。

岩波文庫のライバルとなったのが改造文庫で、社会科学ものを中心に昭和19年まで、六〇〇点以上の書目が出された。とくにマルクス主義関係のものが多く主に学生層を中心に人気があった。これは戦後あまり古書市場に出まわらなかったため昭和52年に点数を選んで復刻された。

ともかく昭和初期、よほど岩波文庫が人気があったため多くの出版社がその特性を生かした様々な文庫を発刊している。

岩波文庫(右が手本にした)
レクラム文庫(左)



春陽堂からは、春陽堂文庫(昭和5年)、日本小説文庫、世界名作文庫が出され、大衆小説や推理小説ファンを中心に人気があった。それらの文庫は現在でも、ある程度の古書価で売れる文庫のひとつである。新潮社は、昭和8年から新潮文庫(新潮社として三度目の文庫)の発行を始め、これまでの文芸ものに加え翻訳文学に力を注ぎ、文庫戦線に参入してきた。

この頃、紅玉堂文庫、誠文堂十銭文庫、弘文堂教養文庫、昭和文庫、万有文庫他多くの文庫が発刊されたが、この時代を岩波・改造・春陽堂・新潮の四文庫時代と観る向きもあるようだ。

さて長く不幸な第二次大戦が終った昭和二十年のはじめは、多くの書物が灰燼に帰し本を作る紙もないという本の欠乏時代であった。戦地からどつと帰ってきた学徒兵

をはじめ敗戦によってあらゆる価値の逆転に遭遇した人々は読書に心の拠り所を求めていた。そのような時、人々の熱望に応えたのが文庫であった。岩波文庫は戦時中も細々ながら出版されていたが、昭和22年には世界文庫(弘文堂)、春陽堂文庫が復刊、新潮文庫の再刊、更には世界古典文庫が刊行され昭和23年にはアテネ文庫、昭和25年に角川文庫が発刊、昭和26年は過熱期ともいえる年で、80・90種にも達する文庫が発行された。この時期が第二次文庫ブームといわれている。古本屋もこの頃は、店に並べ本がなく、仕入れさえあればどんな本でもよく売れたそうだが文庫は廉価であったため特によく売れたという。アテネ文庫や

河出市民文庫、現代教養文庫、創元文庫などはユニークな書目も多く学生に大変人気があった。古書価としてみるとこの時期の文庫では世界古典文庫に一冊一万円というものもあるようだが、大抵は千円前後まで買える。

時代は下り昭和46年に講談社文庫の発刊が口火となり大手の出版社の文庫が勢揃いし、以来今日に至るブームが第3次文庫ブームといわれている。現在文庫を出版している出版社はおよそ38社くらいであるが、書籍の総出版点数に占める文庫の割合は、以前の文庫ブームの時より大きいのではないかと思われる。それだけ文庫がその位置を確立したといえよう。

フランクフルトのブックフェア

シルヴァン書房 岸本征夫

西独のフランクフルトは一年中何らかの見本市が催される都市として有名である。中央駅から、市電で約10分といった便利な所に広大な常設の見本市会場が有り、各産業のフェアを定期的に順次催しているのである。京都、大阪に馴じみのテキスタイルのフェアも春は繊維の素材を中心とした、イン

ターストフと称するフェアが行なわれ、秋にはブレタポルテや染織製品の見本市が行なわれる。世界の服飾の流行を占う重要な催しであり、各商社が競って出品し活発な商取引が展開するのである。丁度このインターストフと前後して印刷物のフェアもある。

10月9日から14日の会期で催された。小生も古書探求、買付けの日程の内三、四日は、このフェアに費やす様にして、毎秋スケジュールを立てている。私の旅はあまり細かい日程は立てずに大体重要なアポイントを中心として点と点を許された範囲で結んで行く方法であり、極端に云えば、朝食を摂りながら、ふっと思いついた地方や街に急拠出向くと云った事もしばしばある。ブックフェアの会期が一週間あると云うのも、こういう旅行者には日程がとり易く有難たい。一流のホテルに滞在して、ゆつくり見学という向きには、市

書も、講談社学術文庫や中央公論社文庫等におさめられ、文庫で手軽に買える時代となった。年期をつんでおられる愛書家の方や図書館などでは文庫は最初からオブリミットされているようですが、日本の狭い住宅事情や、文庫で出版されたものは、それ以下には絶対安くならないという低価格性を考えますと、文庫で作る書齋もまた楽しいもの。現在は文庫サイズの本書も各種製造されており、場所をとらず、整理の簡単な、ささやかな庶民の書齋を、新古さまざまな文庫で作ってみられたいかがでしょうか。

本稿は「文庫の発想」(ダイヤモンド社)を参考にした。
(文庫堂 飛田昭雄)

内の主だったホテルは相当以前に予約をしないといえず難かしいが、一方、ここフランクフルト市には、その性質上、多くの個人住宅より宿泊部屋を提供するという登録が為されており、システムが完備している。このフェアの事務局でも、当日に申込んでも、恐らくどこか近郊の私邸を紹介して呉れ、仲介が成功したら、紹介状を持って訪問し、泊めてもらえる。

勿論、ホテルも市内中心部を除けば若干は宿泊可能のところもあるが、私はいつも前者を利用させていた。一般家庭の実際を知り得るし、又大体四、五部屋に同じメッセの客が泊っている。朝夕顔を合わせて、一寸した会話も話題が共通していて楽しいものである。更にその費用は驚く程安い。今回も三日間滞在したのだが充分な朝食付きで、三分僅かに95マルク、約八千円である。部屋も、バスも自由に使える。居間にはピアノがあり長期に滞在している客が時折弾いて居た。会場より10キロ位離れた郊外であるが、交通の便が良く何も不自由は感じない。約20分で会場に着く事が出来る。

タログが20マルクで売られている。入場券は当日券、二日券、期間通し券と発行されており、当日券は12マルクである。

初日より、全く凄い人の出である。出版社、書店関係者は勿論、学者らしき人、学生、社会人、誰れでも自由に入場できる。近在の学生らしき人も多く見受けられる。



広大なブックフェア会場での筆者

場内には各ホールを順回する小型バスが運行しており、動く歩道も設けられ、広場には大食堂もあり、全く万全の設備である。私は美術書専門のホール3に連日出向いたのであるが、開場9時より閉店6時迄、三日間を費やしても見きれない程の量と質である。多書目を少数づつ商談しながら観て回るのであるから、かなりのハードスケジュールである。でも何年かの訪問の内に顔見知りになり、「元氣ですか、うまくやっていますか……」

と話し合えるのも楽しみであり、仕事を終えて一緒に街に出て、近くビヤホールで乾杯と云うのも疲れをいやして呉れるので、三日間は本当に楽しいものであった。

一階は版画を中心とした印刷物が多く、画廊や画家がブースを出して居た。二階は大手出版や輸入代理店が連つており、出版王国ドイツのブースが多いのは当然であるが、殆んど世界中と云つて良い程、多くの出版社が参加しており、日本からも大手出版社が参加している。ブースを眺めてみると、ある出版社は只一点だけ豪華な本を出版、陳列し販促に努めており、又他方は何十種類も本を所蔵しと並べており、中には個人が自分の作品の出版を手がけてくれるスポンサーを探しているという様に、多様な形で、それぞれ特徴を出してブース造りをしている。私にとつては一階の画廊集団が興味深かった。画風にも、やはり時代の特徴が良く現われている様に思えた。又二階ではフランスの印行が、グーテンベルクの四十二行聖書を複製刊行して、展示予約受け付け中であった。日本から四、五冊受注したとの事であった。手造りの順序、実演の載つたドキュメントを発行していた。聖書、祈祷書の手造り本は毎年の様に発表されるが、やはりこの種の本は永遠のベストセラーなのであろうか。

各書店が各々素晴らしいカタログ

古書研だより

大盛況・第九回古本まつり

昨秋十一月一日より四日まで百万遍知恩寺境内にて開催した当研究会の「秋の古本まつり」は連日晴天に恵まれ、新聞・テレビに秋の「風物詩」として紹介されたこともあって連日超満員の大盛況であった。入口に設けたアンケート函には毎日ぎっしりの解答用紙が入り、村役場は探究書案内の放送で汗だく。本年はいよいよ第十回を迎えるので会員一同その企画に大はりきりの毎日である。

文庫堂が京大近くに移転

「文庫堂」飛田昭雄氏が京大の北東山通りへ新店舗を構えた。百万遍から北へ古書研の店が二店並ん

を出しているの、連日の様にカバンにいっぱい詰め込んで帰るのであるが、旅の途中なので最終日には最寄の郵便局より小包として出して貰う。帰国后、このカタログを一つ一つ、丁寧に見て、このフェアの情景を思い浮かべながら、発注するのが楽しみの一つである。さてホール内では書店のブースとは別に印刷技術や装丁術、版画、染め紙の実演も為されており、今回は図書館との提携した催しもあり、又あちこちに軽食のできるスタンドがあつて、一日中、此処で

過せる様に工夫されている。本好きの人なら倦きる事なく、その中に浸って居れる空間である。正にフェスティバルである。フランクフルトはミュンヘンやケルンの様な古都の趣きにはやや乏しい都市かも知れないが、商都として、このメッセを中心としての活況は見るべきものがある様に思う。皆さんも、若し、秋にドイツを訪れる機会があつたら、一度このフェアを訪れたら、如何でしょうか。

だことになる。詳しくは21頁の文庫堂古書目録を参照下さい。

編集後記

◎正月休み返上で編集してここに新年のあいさつを書く予定であったのが松の内もとくに過ぎての発行にまずおわびを申し上げます。

◎梅原先生にお話をうかがったのはクラーの効いた学長室。その話をお伝えするのは日中火の恋しい寒中とはいささかニュース性に欠けるが、京都の古本やへのサジェッションを今後どう生かすかが私共の課題である。

◎古本まつり皆勤の松尾先生の記事にも京の古本やへの願いがこめられている。玉稿に感謝します。

次号予定

「京古本や往来」第三十二号は四月十五日発行予定です。

3 1 小呂多利呼大性絲 新色品四海江 絲 身

[illegible]

谷 書 房

〒600 京都市下京区七条通堀川角

電話(〇七五)三二六一七六九五
振替 京都 一一一七九

1	印度大聖サルマ物語	酒井鋒滴	大元	四〇〇〇
2	釈尊	赤沼智善	昭9	四〇〇〇
3	釈尊御一代記図会	北齊絵(銅版)	明26	三〇〇〇
4	善悪因果経和談図絵	松亭金水	明32	二〇〇〇
5	宗教民族学	宇野円空	昭19	七〇〇〇
6	華嚴大経の研究	龜谷聖馨	昭6	五〇〇〇
7	天台宗典目録	山口光門他編	昭16	五〇〇〇
8	密宗密綱要	天台宗務庁教学部大	昭9	二五〇〇
9	密教史綱要	高嶋米峰	昭14	二〇〇〇
10	常済大師伝	孤峰智珠	昭14	二五〇〇
11	真言密教講話	野見山思齋	昭8	三〇〇〇
12	十善法語	慈雲尊者	大15	三〇〇〇
13	蓮華標名録	松見旬堂	大3	一五〇〇
14	真俗仏事編	諱忍	寛延元	八〇〇〇
15	三昧仏戒儀并序	小虫 六冊揃	享保13	一五〇〇〇
16	三昧仏戒儀并序	吞空 貝葉版	明治	三〇〇〇
17	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
18	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
19	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
20	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
21	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
22	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
23	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
24	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
25	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
26	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
27	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
28	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
29	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
30	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
31	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
32	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇
33	三昧仏戒儀并序	明曆二	明治	四〇〇〇

京 極 書 房

〒604 京都市中京区壬生下溝町七一
(仏光寺通西新道東入)電話(〇七五)三二五一五六〇
振替 京都 一一一七九

1	伝 統	平泉 澄	昭18	三〇〇〇
2	菊池勤王史	平泉 澄	昭16	三〇〇〇
3	加越新勤王史略	其家表彰会	昭5	二〇〇〇
4	勤王文庫 首巻欠五冊	社会教育協会	昭6	二〇〇〇
5	勤王製土伝	頌功社	大2	四〇〇〇
6	明治維新史研究	史学会編	昭5	五〇〇〇
7	明治維新史研究	渡辺幾治郎	昭19	二五〇〇
8	明治文明研究	石田文四郎編	昭7	二五〇〇
9	明治文明研究	緒方富雄訳	昭19	三六〇〇
10	明治文明研究	渡辺 庫輔	昭39	五〇〇〇
11	明治文明研究	松崎敏太郎訳	昭8	七〇〇〇
12	東西文化史論叢	原弘二郎先生古稀記念	昭19	三〇〇〇
13	東西文化史論叢	阿部隆一郎編	昭19	三〇〇〇
14	東西文化史論叢	大羽綾子編	昭22	三〇〇〇
15	東西文化史論叢	森岡美子	昭19	二八〇〇
16	東西文化史論叢	納富・日比野	昭21	三〇〇〇
17	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	二八〇〇
18	東西文化史論叢	内田銀蔵	昭17	一五〇〇
19	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
20	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
21	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
22	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
23	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
24	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
25	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
26	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
27	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
28	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
29	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
30	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
31	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
32	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇
33	東西文化史論叢	今泉みね	昭17	一五〇〇

藤 井 文 政 堂

〒600 京都市下京区寺町通り五条上ル

電話(〇七五)二五一九三六二
振替 京都 七十一五一

1	正校存々成務	真勢達富	昭42	四〇〇〇
2	卜筮経験占考記略	鴨書店	昭34	三〇〇〇
3	千支五行易活断	佐藤六龍	昭33	五〇〇〇
4	墨色一の字秘伝	尾米大寛	昭33	五〇〇〇
5	神易占	高島易断	昭2	二〇〇〇
6	運命自観	黙斎道人	昭2	二〇〇〇
7	八品神機幽玄術	陽新堂主人	昭4	五〇〇〇
8	顔は性格と運命を語る	石龍子	昭14	四〇〇〇
9	神山靈典	友清九吾	昭9	八〇〇〇
10	手相新解	西勝造	昭10	二〇〇〇
11	アチドーリスとアルカローリス	西勝造	昭9	二〇〇〇
12	姓名学双書第一篇国語の研究から	真勢中州	昭3	五〇〇〇
13	易学階梯	新井白蛾	昭4	五〇〇〇
14	古易断時言	武村風金子	昭4	二〇〇〇
15	五音心易	一行	昭4	二〇〇〇
16	看命一掌金和解	横本	昭4	二〇〇〇
17	周易断法・周易序卦断法・易術選急伝	易一交変占法口訣	傷み本	半紙五冊
18	易一交変占法口訣	傷み本	半紙五冊	一五〇〇
19	千里必究国宝大雑書万福大成	大正版	明6	二五〇〇
20	鬼神新論	平田篤胤	明6	二五〇〇
21	校正王代一覽	挿絵入	明6	二五〇〇
22	報徳論並報徳外記	富田高慶	明6	二五〇〇
23	柏手並柏説	元禄十四年写本	明6	二五〇〇
24	洪鐘筆記	日輝述	昭10	二五〇〇
25	加持病患折捥肝文鈔	半紙	昭10	二五〇〇
26	在家護摩供次第及勤行法	天台修験	昭10	二五〇〇
27	国訳一切経阿含部	十冊揃	昭10	二五〇〇
28	理源大師寔録	沙門龍海	昭10	二五〇〇
29	武家論話	沙門光映	昭10	二五〇〇
30	多武峰録起	宣賀 天保版	昭10	二五〇〇
31	国訳大蔵經 經部揃	国民文庫刊行会十三冊	昭10	二五〇〇
32	海潮音文庫(佛学双刊)	新文豐出版 民国版三冊	昭10	二五〇〇

— 性文学、科学、風俗特集 —

1. Der Komplex der Flagellomanie E.Schertels 博士著 288頁 鞭打図多数入 背革 マーブル
美本 28×22 ベルリン刊 ¥55,000
2. ビルダー レキシコン A.Mergen 著 挿図、色刷図多数入+性研究 各巻500頁以上
背革美本 全10冊 1963 ¥150,000
3. 西洋性風俗史 P.Englisch 著 442頁 230図 布装 ベルリン、ウィーン
1931 ¥16,000
4. エロチック文学史 Dr.P.Englisch 著 J.Püttman 刊 695頁 112図 布装 Stuttgart
1927 ¥30,000
5. Psychopathia Sexualis 性的精神異常 P.V.Kraft-Ebing 著 832頁 1924 ¥35,000
6. マルキ ド サドとその時代 Dr.E Dühren 著 布装 538頁 4 to.
H.Barsdorf 刊 ベルリン 1917 ¥7,000
7. C.Andrer de Nerciat 著作集 第3集 MONROSE. G.Apollinaire 序 396頁 紙原装
Curieux 刊 パリ 1912 ¥5,000
8. 古典のエロトロジ概論 F.CH.Forberg 著 A.Bonneau 仏訳 223頁 紙原装、美本
331/500部限定 パリ 1933 ¥25,000
9. インドのヴィナス ヒンドスタンの恋の冒険 C.Dévereux 著 P.de Pondichery 仏訳
ボンベイ 初版 1914 ¥25,000
10. ゴロエと二人の仲間 愛書家の小箱 Marguis de Sade 著 Curieux 刊
1881/2260部限定版 パリ 1922 ¥10,000
11. エロチック文学の名文集 (全時代と民族を通じての) Dr.P.Englisch 著 私家版 ウィーン ¥25,000
350頁、tall 4to.
12. Comte de Mirabgau 著作集 Eroika Biblion. G.Apollinaire 序文 287頁 1910 ¥5,000
13. エロス、我が恋の罪 E.Cadivec 著 privatdruck. 323頁 著者写真付 日記風文体 美本 独文
¥6,000
14. 告白と体験 E. Cadivec 著 privatdruck 女性の日記風告白文 美本 独文 ¥6,000
15. Madame de Sees C.Anet 著、P.Laprade オリジナル 挿画 色刷16図 153頁 Grasset 刊
限定版番号入20番本 ¥48,000
16. 私の馬、友達、そして愛人 M.Asture 著 C.Martin によるボショワ 色刷20挿画 234頁 434/500
1921 ¥35,000
17. ジュスティンとジュリエット マルキ ド サド 独訳 R.Haller 103図+2巻 全3巻総革箱入極美
限定 18/500 ¥300,000
18. 鞭打ち折檻の歴史 by the Wm.M Cooper 著 548頁 図版多し 20×12.5 装飾布装 美本 ¥25,000
19. La Vieille Fille H.de Balzac 著 Beuville ボショワ 色刷挿画 紙原装 603/1000部 ¥80,000
20. ブローニウの森の四季 M.Beaubourg 著 J.Laboureur オリジナル版画 16色刷図入 150頁
254/300部 1928 ¥125,000
21. Le Sopha C.Fils 著 Carlegle 手彩色挿図 641/1000部 1933 ¥35,000
22. Trois Filles et leur Mere. P.Louÿs 著 295頁 201/500部 1950 ¥20,000
23. Jacques Casanova C.Samaran 著 マーブル装 C.Levy 刊 パリ 2冊 ¥22,000
24. チャタレー婦人の恋人 D.H.Lawrence 著 365頁 私家版 背、角革 美装 1929 ¥10,000
25. Le Fouet Libertin A.Kardy 著 240頁 1926 ¥28,000
26. Le Moyen de Parvenir B.de Verville 著 13手彩色図 Uzelac 原画 690/1500部 ¥40,000
27. Femmes P.Verlaine 著 200部限定 ¥10,000
28. ファニー ヒルの回想 J.Cleland 著 背角革 天金美本 英文 1888 ¥20,000
29. Die Geschichte von Venus und Tanhäuser A.Beardsley 著 80頁 限定番号561 私家版 ¥20,000
30. エロチック芸術史 E.フックス著 ランゲン刊 Das Individuelle problem 1, 2, 共3冊 ¥100,000
31. Les Bazaris de la Volupté Willy et pol prille 著 187頁 マーブル 布装 モンターニュ刊 1930 ¥8,000
32. Le Livre de Mon Ami Anatole France 著 318頁 19×12 背革 マーブル装 蔵書票付美本
C.レヴィ刊 ¥8,500
33. エロチックな蔵書票 A & A Hopf 監 174頁 160図 ポケット版 1981 ¥2,950

〒600

京都市下京区仏光寺通東洞院角

シルヴァン書房

電話 (〇七五) 三四一七八七九三
振替 京都 一七九二八

新着洋古書リストお送り致します。

御希望のジャンルをお教え下さい。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|---------------------------|-------|
| ●挿し絵本 | 稀少本 | 約50冊 | ●性文学科学風俗、私家版発禁を含む | 約100冊 |
| ●英米文学 | 初版を含む | 約200冊 | ●考古学、歴史、地理関係 | 約100冊 |
| ●戦争関係 | 〃 | 約50冊 | ●W.モリス文献一括 | 約40冊 |
| ●独仏文学 | 〃 | 約100冊 | ●デンマーク文学 (リスト作成中2月中旬出来上り) | |
| | | | 歴史、考古、辞典、挿し絵本 | 約800冊 |

石川古本店

電話(〇七五) 七一一五四二九
振替 京都 七一二〇八九

1	日本庭園図解	杉本文太郎	建築書院	大6	三〇〇〇
2	築山庭造法(下)	中島春郊		明29	三〇〇〇
3	中世荘園史研究の歩み	中野栄夫		昭57	一、八〇〇
4	旅に探る史蹟名勝	高橋城司	三明社	昭8	一〇〇〇
5	我が郷土の史蹟と傳説(一冊) 渋谷吾往斎			大15	三、五〇〇
6	福翁百話	時事新報社(イタミ有り)		明35	二、〇〇〇
7	第三獨案内(イタミ) 雨宮金護	東京屋		明20	二、〇〇〇
8	立命館禁衛隊寶典	和木(奥付欠)		二〇〇〇	
9	創立五十年記念	岡山県師範学校同窓会		大13	一〇〇〇
10	北野天満宮御略傳	北野会		昭3	二、五〇〇
11	北野会要誌	北野会		昭4	二〇〇〇
12	嵯峨誌	堀永休	同自治会	昭7	六、五〇〇
13	土佐日記俚言解	再版	佐々木信綱	明23	五、〇〇〇
14	宮殿調度図解	関根正直	一冊揃	明3	三、五〇〇
15	乙夜隨筆	佐々木信綱		昭21	三、〇〇〇
16	ギリシヤ神話選	童話研究会		昭3	二、〇〇〇
17	ガリバー旅行記	童話研究会		大14	二、〇〇〇
18	算易一名そろばん占い	心友社(イタミ)		大15	一、五〇〇
19	九星と陶宮術	大畑裕	永楽堂	昭2	二、五〇〇
20	人間奇話全集	文化普及会		大13	二、五〇〇
21	不傳房(佛教小説)	イタミ		明30	二、〇〇〇
22	宗教的信仰と教育	青柳栄司	人文書院	昭9	二、〇〇〇
23	悟道の妙味	高階龍仙	隆文館	大8	三、〇〇〇
24	法輪感話	座光寺憲之	聖教書院	昭9	一、〇〇〇
25	讃仰歎異鈔講和	佐藤敏英	興教書院	昭9	二、〇〇〇
26	通俗禪話	高橋厳堂	大文館	昭15	三、五〇〇
27	禪道俗話	開宮英宗	貝葉書院	昭3	二、五〇〇
28	硯友社の文学運動	福田清人	巧藝社	昭25	三、〇〇〇
29	惜襟荘主人	小林勇	岩波書店	昭38	一、五〇〇
30	義佛の最期	坪内雄蔵	春陽堂	大7	一、〇〇〇
31	獨佛戦史	川崎三郎	博文館	明27	一、〇〇〇
32	図聚天狗列伝	西、東日本編、一冊	知切光蔵	昭52	三、〇〇〇
33	鉄腕アトム	全34冊揃	手塚治虫 光文社	大52	五、〇〇〇

千606 京都市左京区今出川通百万遍東入
(京都大学前)

井上書店

電話(〇七五) 七八一三三三二
振替 京都 七一二四九七

1	悲歌と祝禱	大岡信詩集	初	青土社	昭51	一、八〇〇
2	狩月記	大岡信	初	青土社	昭48	一、六〇〇
3	寸砂夢	瀧口修造	初	思潮社	昭50	一、六〇〇
4	吉田健、譯詩集	葡萄酒の色	限定本	垂水書房	昭39	一、〇〇〇
5	中江俊夫詩集	語彙集	初	サンリオ	昭51	二、〇〇〇
6	詩集「カミのフリストネム」	飯島耕一	四版	青土社	昭50	一、四〇〇
7	百年戦争	佐々木幹郎	初	河出新社	昭53	一、〇〇〇
8	瀧口修造の詩的実験(五七五)	瀧口修造	初	河出新社	昭52	一、〇〇〇
9	耕田百句	吉岡美編	限初	コトブキ	昭51	二、〇〇〇
10	詩集幽明婚	橋本真理	限初	深夜叢書社	昭49	一、五〇〇
11	詩集稲妻捕り	加納光於	初	書肆山田	昭53	一、〇〇〇
12	攻防 谷口利男遺稿		初	七月堂	昭55	一、〇〇〇
13	詩集貧乏	一色真理	初	冬至書房	昭50	一、〇〇〇
14	詩集北條	石原吉郎	初	花神社	昭47	一、五〇〇
15	徐々になへ・ほか	若成達也	初	思想社	昭47	一、九〇〇
16	岩成達也詩集	中野重治	初	書肆山田	昭55	一、八〇〇
17	詩集黄泉御待待跡	野間聖子	初	思想社	昭50	一、〇〇〇
18	花井純一郎詩歌集	祝祭空間	初	母岩社	昭47	二、〇〇〇
19	詩集「画家善美家たちの肖像」	飯塚田敏彌	限初	コトブキ	昭49	一、〇〇〇
20	大野新詩集	初	永井出版企画		昭47	二、〇〇〇
21	詩集 佐々木幹郎 元亨 三三	永中大火災初	国文社		昭48	一、二〇〇
22	詩集 われアルカディアにもあり	洪沢孝輔	青土社		昭49	一、〇〇〇
23	乱暴な大洪水	藤井貞和詩集	初	思想社	昭51	一、四〇〇
24	草野心平詩集原音	初	筑摩書房		昭52	一、七〇〇
25	詩集 野合一処	終章 増本盛喜	初	皆美社	昭51	一、六〇〇
26	詩集 草野心平 終章 増本盛喜	初	皆美社		昭48	一、〇〇〇
27	詩集 東天の虹	堀口大学	初	彌生書房	昭51	一、〇〇〇
28	詩集 空洞	高橋新吉	初	立風書房	昭56	一、七〇〇
29	詩集 望楼	稲米哲蔵	第二刷	花神社	昭53	一、六〇〇
30	詩集 集の淵より	飯島耕一	初版	講談社	昭40	一、五〇〇
31	詩集 next	飯島耕一	初	河出新社	昭52	一、五〇〇
32	眩暈祈禱書	塚本邦雄	初	審美社	昭48	一、八〇〇
33	芒彩集 塚本邦雄 季刊「銀花」刊				昭50	七、〇〇〇

千602 京都市上京区烏丸通今出川上ル
同志社正門前

沢田書店

電話(〇七五) 四五一一〇五三
振替 京都 三一九二四八

1	新沢三才発秘三冊	石橋菊子訳	学而堂	昭53	二、〇〇〇	
2	三元九星方位図鑑	音羽五山	光彩社	昭52	六、〇〇〇	
3	秘鍵数理四柱推命学	志田満世	光彩社	昭50	一、七〇〇	
4	墨絵の技法	山田玉雲	日貿出版	昭49	二、四〇〇	
5	墨絵の描法写生表現鑑賞	山田玉雲	日貿出版	昭49	二、五〇〇	
6	日本絹人絹織物史	同刊行会編		昭34	七、〇〇〇	
7	航空写真大観京都わが山河	京都新聞社		昭56	六、八〇〇	
8	関西と関東	宮本又次	青蛙房	昭53	一、六〇〇	
9	趣味の慶州	大坂六村	慶州古蹟保存会	昭6	二、五〇〇	
10	正倉院随想	李家正文	鹿島研究会出版	昭40	一、三〇〇	
11	日本の茶席建築	重森三玲	富書店	昭21	一、三〇〇	
12	大和の神樂集	村松梢風	共立出版	昭47	一、二〇〇	
13	山川登美子全集	上下	坂本政親編	昭40	一、二〇〇	
14	中野重治詩集	定本全詩集	初版帯付	筑摩書房	昭55	三、〇〇〇
15	詩集空河	高橋新吉	初版函付	立風書房	昭56	二、〇〇〇
16	長谷川竜生バルバラの夏	初版函	青土社	昭55	一、八〇〇	
17	恍惚の王国	初版 宗左近芸術論集	朝日出版	昭48	二、五〇〇	
18	橄欖の小枝	芸術論集	辻邦生	中央公論社	昭55	二、〇〇〇
19	われらにとつて美は存在するか	服部達	近代生活社	昭31	一、八〇〇	
20	兄啄木の思い出	三浦光子	函付	理論社	昭40	一、八〇〇
21	修羅	石川淳	中央公論社	昭33	一、五〇〇	
22	三菜木町通り	水上勉	初版函	中央公論社	昭39	一、〇〇〇
23	夢殿殺人事件	小栗忠太郎	熊谷書房	昭21	二、〇〇〇	
24	富士に立つ影	六冊揃	白井寛	平凡社	昭3	二、五〇〇
25	逃げ水	初版函	子母沢寛	中央公論社	昭35	一、〇〇〇
26	日本敵討ち異相	初版函	長谷川伸	中央公論社	昭38	一、〇〇〇
27	暴力なき革命	アスハルゲン	中原誠	磯部書房	昭28	一、〇〇〇
28	マツチ産業発達史	マツチ百年史編		昭49	一、六〇〇	
29	需要動向調査報告書	マツチ	中小企業団	昭45	一、三〇〇	
30	タイヤモントマツチ75年の歩み	他小冊子四冊	岩波書店	昭32	一、五〇〇	
31	落伴全集	第一期廿三巻三冊	岩波書店	昭24	一、八〇〇	
32	落伴全集	第二期廿三巻三冊	岩波書店	昭24	一、八〇〇	
33	落伴全集	第三期廿三巻三冊	岩波書店	昭26	二、〇〇〇	

東 方 書 店

電話 (〇七五) 四九一・二〇七

〒603 京都市北区小山下内河原町六三

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
普及建國精神之教育資料：集 中國文、文部部 大同2	外國に於ける國字問題 文部省 大8	イギリスの對印度教育政策 東亞研究所 昭16	創立五十周年記念誌 京一商同窓會校友會 昭11	龍華教養生學算精算表 精華教校 明21	教育パンフレットNo.63 大阪教育研究所 八冊 昭7	山口高等學校一覽 大14、15年 昭7	明治專門學校一覽 大13、14年 昭7	學協會一覽 文部省大學學術局 昭26	記念号(写真帖) 京都府立農林學校 昭43	學協會要覽 人文科學 文部省大學學術局 昭28	會誌 十九号 明星商業校同窓會 昭4	至誠 二十四号 大阪府立八尾中學校々友會 昭6	改訂新教育學綱要 乙竹岩造 檢定済 昭6	教育時論 第一号 開發社刊 明18	中學學校作法支援要項 文部省調查 昭17	創立六十周年記念誌 神宮皇學館 昭11	日本教育論 思想問題小輯十 福島政雄 昭8	思想問題と學校教育 思想問題小輯一 吉田能次 昭8	杜丁讀本 田中義一 昭8	京都市教育 一卷一號 其教育會 大13	社會教育講演集 12、13集 京都社會教育課 昭9	郷土支事年表 榮文庫パンフレット第三輯 靜岡文化協會 昭8	國語調査沿革資料 文部省 昭24	セブランス聯合醫學專門學校一覽(京城) 昭11	同志社文學雜誌 51・52号 明25	水産講習所一覽 其講習所 奥村一郎 破れ 昭10	學窓會誌 十三号 滋賀県立大津商業學校 昭14	文部省在外研究員表 文部省專門學務局 昭5	年報 昭和十三年 京都府立第一中學校 昭5			
72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	
帝國學士院會員錄	哲學會會員名簿	天路歷程物語 益本重雄 昭11	獨語研究 創刊三卷上号 檜田保之助編 在本27冊 昭4	開校滿二十年記念号 大阪府立八尾中學校 同窓會校友會 大4	生活指導 研究資料一 文部省編 昭32	小中学校社會科的解説 文部省編 昭30	裁縫と手芸 内場銑之助 昭38	高等小學圖画一 二學年女子用 文部省 昭10	改修心理學教科書 福永友吉 檢定済 明43	尋常小學地理書 卷二 文部省 昭11	高野大學要覽 昭4	京三中同窓會誌 第34号 昭8	福井大學年鑑 福井大學事務局 昭26	高等科算術書二 二學年兒童用 文部省 昭12	高等小學算術書一 女子用 文部省 昭19	初等科工作一 文部省 一卷表紙一部イタミ 昭18	植物生態美觀 三好學 昭36	全國體育施設一覽 文部省 昭25	研究紀要 第一輯 京都府師範學校 昭11	家庭歴史談 玉置正太郎 昭34	ワルツイングリッシュリッダー五卷 檢定済 大3	算術教科書 渡辺孫一郎 大12	維爾孫氏著 立體幾何學 眞野肇訳 明23	維爾孫氏著 平面幾何學 眞野肇訳 明23	民主主義 上・下 文部省 昭24	日本の歴史 上 文部省 昭21	社會教育の手引 文部省社會教育局編 昭28	同窓名簿 京一商同窓會 昭12	會員名簿並學習指導要項改訂草案 文部省 昭35	教師のための兒童詩教育 久米井東 昭34		
111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80		
金光教年表 金光教本部 昭35	東北凶作義全報告 朝日新聞社 昭9	天理教統計年鑑 12、13回 天理教々々 昭17	東京市政概要 東京市役所 昭14、16、17年各	和文電報料金早見表 大阪通信局 昭22	靜動雜記 鈴木文史郎 昭17	南方要覽 朝日新聞社刊 昭17	南方講座 京都市文化課 明41	京十字主義 町田熊男編 二、五〇〇	秋田風俗問答 郷土趣味No.52 大13	満州隨想 田口稔 昭8	先輩の見た京大問題 淺田暢一編 昭8	宗門社會事業指導書 白連宗務院社會部 昭16	日本開化小史 一卷・六卷揃 田口卯吉 明15	北海道給本 更料源藏文川上澄生画 背少痛 昭24	文芸年鑑 新潮社版 昭21	時論 創刊号 田畑弘編 昭21	敘說 第二輯 小山書店 昭23	新日本文學 創刊準備号 表紙少痛み 昭21	全関西婦人連合會 創刊号 表紙少痛み 昭21	會員名簿 日本圖書館協會 昭23	演劇學 第一号 演劇學會編 昭5	讀書人 創刊号 増山新一編 昭26	工藤山訓言歌詞概況 協調會 昭6	団報 No.5 京都府連合青年團 昭13	京都市實業青年團 昭16	京都市實業青年團 昭16	新労働黨樹立の提案 大山郁夫他 昭29	京都市實業青年團 昭21	事業一班 福井県福田會司法保護事業 昭5	有鄰第三館記 藤井齊成會 昭5	羅馬問題の由來及解決 仏教連合會調查部 大正末	

〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5

社会科学系
外 山 書 店
電話(〇七五) 七〇一六六七
振替 京都 九一六三八四

1	新修京都叢書 全20巻	光彩社	昭44	五,〇〇〇
2	大正大礼京都市府記事庶務の部上下京都市	大6	七,〇〇〇	
3	平安遷都記念祭第4回勸業大博覧会	明26	一五,〇〇〇	
4	総合計画予定大路 紀成常喜	昭46	二,〇〇〇	
5	京都社会史研究 同大人文科学研究所編	昭31	二五,〇〇〇	
6	河上肇博士文獻志 天野敬太郎編	昭43	三三,〇〇〇	
7	京都地方労働運動史 増補版 渡辺徹	昭12	五,〇〇〇	
8	戦後三〇年の片影 浅山富之助	昭52	三三,〇〇〇	
9	京都府警察史第1〜第3巻 同府警本部	昭55	四〇,〇〇〇	
10	平和の礎 北白川戦没者慰霊の会	昭55	二,〇〇〇	
11	京都市三大事業誌(3冊在)京都市役所	大3	五,〇〇〇	
12	水道編第16集(2冊) 統集(一冊)	明45	九,〇〇〇	
13	京都市三大事業(写真集) 京都市役所	昭59	四〇,〇〇〇	
14	第一期水力電気事業没革志附属図譜	五,〇〇〇	五,〇〇〇	
15	日本科学の勝利発明王島津源三井上五郎	昭14	三,五〇〇	
16	京都産業の実態 京都市商工局	昭32	九,〇〇〇	
17	177合本一冊	昭33	二,〇〇〇	
18	商工編 京都市百年の年表2	昭45	二,〇〇〇	
19	機業兼業地域における農家経済と生活	昭42	三,〇〇〇	
20	一野田川町の実態分析―京都府農業会議	昭54	二,〇〇〇	
21	菓子ひとすじ 稲田鶴堂伝 鶴屋吉信	昭7	五,〇〇〇	
22	藤江永孝伝 京都陶磁器試験場	昭44	四,〇〇〇	
23	京都織物株式会社会史 同社	昭17	八,〇〇〇	
24	宇治電々回顧 林 安繁	昭43	二,八〇〇	
25	京都中央卸売市場統計年報(第一報)	昭43	二,〇〇〇	
26	自昭21至昭5年度 同場	昭43	二,〇〇〇	
27	京都中央卸売市場経済収支概覧(44P)	昭43	二,〇〇〇	
28	京都府資料所在目録	昭43	二,〇〇〇	
29	京都府文化財保護基金刊行物四冊一括	昭43	一五,〇〇〇	

27	馬路村資料目録 同志社大文化研	昭32	九,八〇〇
28	学叢 創(昭54)第6号(昭59)揃	昭7	二,〇〇〇
29	歴代皇陵 立命館禁衛隊編	昭55	三,〇〇〇
30	京都の社寺 京都府文化財保護基金編	昭42	二,五〇〇
31	京都大学七〇年史(ダイジェスト版)	昭10	三,〇〇〇
32	京都帝国大学文学部三十周年史 同部	昭55	四,〇〇〇
33	京都大学工学部建築学教室六〇年史	昭28	七,〇〇〇
34	同志社五〇年史 石川芳次郎	昭5	二,〇〇〇
35	京都市中学校五ヶ年の沿革 同小学校	昭10	一,〇〇〇
36	聚楽校百年史 同小学校	昭39	二,五〇〇
37	創立九〇周年記念誌 北白川小学校	昭10	一,〇〇〇
38	日本精神確立実践国史教育の大道	昭43	三,〇〇〇
39	琵琶湖 完 京都府女子師範附属小学校	明43	三,〇〇〇
40	写真・画帖近江と人物 近江人協会	昭4	八,〇〇〇
41	近江名跡案内記(少線)全一冊北川舜治	明24	二五,〇〇〇
42	社会学部論叢 創(昭42)16号(昭57)揃	昭48	一五,〇〇〇
43	野口隆博士還歴祝賀記念論文集 広島社会学研究会編	昭25	四,〇〇〇
44	社会学方法論序説 尾高邦雄	昭37	六,〇〇〇
45	高田社会学 高田保馬	昭39	三,〇〇〇
46	社会学論集 白井二尚	昭39	四,〇〇〇
47	社会学論集 溝口靖夫	昭28	二八,〇〇〇
48	宗教社会学研究 福鎌忠恕他訳	昭31	二四,〇〇〇
49	デュルケム・プラグマティズムと社会	昭48	五,〇〇〇
50	ウェーバー社会学の方法と構想 林道義	昭32	七,〇〇〇
51	イデオロギーとしての家族制度 川島武宣	昭32	六,〇〇〇
52	館 稔著作三冊 古今書院形成選書	昭32	六,〇〇〇
53	日本の人口移動(増補版) 大都市人口	昭32	六,〇〇〇
54	の諸問題 人口分析の方法(増補版)	昭32	六,〇〇〇

53	亜爾然丁ノ富源ト其ノ利用開拓 上巻	昭6	一五,〇〇〇
54	蘭領ボルネオノ産業と邦人 拓務省	昭8	一五,〇〇〇
55	南丁字星―シンガポール日本人社会の歩	昭53	二,〇〇〇
56	みー創立十周年記念(復刻版)	昭18	三,五〇〇
57	ハーゼブレック・都市国家と経済	昭43	七,五〇〇
58	田園都市 近畿圏整備と都市	明40	三六,〇〇〇
59	近畿圏整備と都市 近畿都市学会編	昭43	七,五〇〇
60	中沢誠一郎古稀記念都市論文集	昭48	八,〇〇〇
61	時の流れ都市の流れ 山田正男	昭34	九,〇〇〇
62	本邦新聞の起源 鈴木秀三郎	昭41	一,〇〇〇
63	大阪社会部戦後二〇年史 朝日新聞	昭25	四,〇〇〇
64	現代思想としてのマルクス主義 藤野渉編	昭37	七,〇〇〇
65	ソヴェート辞典参照版 中城龍雄編	昭37	七,〇〇〇
66	共産主義と帝国主義 桑原武夫編	昭37	七,〇〇〇
67	フランス百科全書の研究 小場満卓三	昭37	七,〇〇〇
68	先駆者たち―イデオロと百科全書	昭37	七,〇〇〇
69	トレーズ・人民戦線とフランス共産党	昭37	七,〇〇〇
70	クロボトキン全集 全12冊 春陽堂	昭37	七,〇〇〇
71	幸徳秋水評伝 社会経済労働研究所編	昭22	二八,〇〇〇
72	社会主義と自由 向坂逸郎	昭22	二八,〇〇〇
73	日本共産党闘争小史 市川正一	昭21	一,〇〇〇
74	松川運動全史 同編纂会編	昭21	一,〇〇〇
75	社会問題 同編纂会編	昭21	一,〇〇〇
76	独逸社会政策思想史 大河内一男	昭14	二八,〇〇〇
77	小河滋次郎著作選集 全2冊 同刊行会	昭17	五,八〇〇
78	興亜厚生大会誌 中馬 馨	昭16	八,〇〇〇
79	同仁会四十年史 穂坂唯一郎	昭18	三六,〇〇〇
80	デュルケム・自殺論 鈴木・飛沢訳	昭7	二五,〇〇〇
81	水俣病自主交渉川本裁判資料集同編纂会	昭16	二〇,〇〇〇
82	水平運動批判 佐野一男	昭13	一〇〇,〇〇〇
83	技芸倶楽部 同会	昭50	四,五〇〇
84	創(大12)15号(昭13)内欠6冊	昭50	四,五〇〇
85	長野県連合婦人会二五年史	昭50	四,五〇〇
86	全地婦連二〇年史	昭50	四,五〇〇

大 書 堂

電話(090)三二一〇六八五
振替 京都七十三六五

〒604 京都市中京区寺町通錦上ル



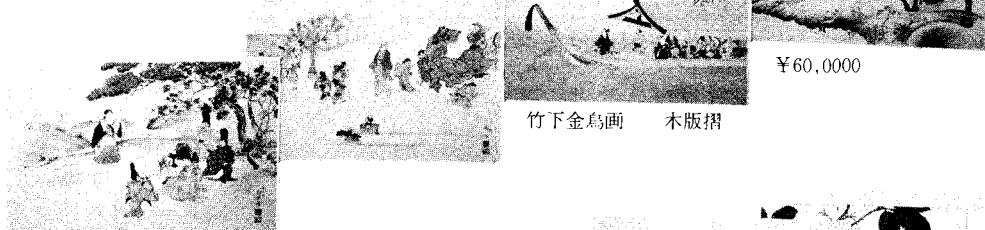
唐 子 絵 児島玉鳳木版画集
全十五図 ¥95,000



能楽百番 全120図揃二帳

月岡耕漁画 大13年 木版摺

¥1,500,000



¥60,0000

竹下金鳥画 木版摺

遊 楽 絵 全十二図



¥280,000

抱一、其一、其明、筆

四季の花 全10帳

芸艸堂 木版摺 明治40年

千 606 京都市左京区浄土寺西田町八十一
法律・経済・思想 一般書 竹岡書店
電話(〇七五) 七六一四四五四
振替 京都 五一四二六一二

品切・絶版文庫特集

岩波文庫

1	ルナン イエス傳	津田 穰 訳	昭 21	一、五〇〇
2	旧約聖書 サムエル記	関根正雄 訳	昭 49	一、〇〇〇
3	ルター 基督者の自由	石原 謙 訳	昭 27	五〇〇
4	デユルケム 宗教生活の原初形態	全2冊 古野清人訳	昭 16	四〇〇〇
5	バジエス 日本切支丹宗門史	全3冊 吉田小五郎訳	昭 16	五、〇〇〇
6	ルーン 聖書物語(全2冊上巻赤線)	前田 昭 25	一、〇〇〇	
7	ルター マリヤの讃歌(赤線)	石原他訳	昭 25	五〇〇
8	デイルタイ 世界観の研究	山本英一訳	昭 11	八〇〇
9	ベルンハイム 歴史とは何ぞや	坂口他訳	昭 53	一、〇〇〇
10	ザノビス 知性改善論	畠中尚志訳	昭 17	一、〇〇〇
11	アノルド 教養と無秩序	多田英次訳	昭 49	六〇〇
12	デイルタイ 哲学の本質	戸田三郎訳	昭 44	五〇〇
13	マルクス 哲学の貧困	山村 喬訳	昭 44	六〇〇
14	ボエティウス 哲学の恵め	畠中尚志訳	昭 28	八〇〇
15	プラトン プロタゴラス	菊池慧一郎訳	昭 2	五〇〇
16	ワイヒテ 獨逸国民に告ぐ	大津 康 訳	昭 7	一、〇〇〇
17	ジェームズ 心理学 全二冊 今田 恵 訳	昭 44	一、〇〇〇	
18	エリス 夢の世界	藤島昌平訳	昭 27	三〇〇
19	ブレントノ 天才・悪	篠田英雄訳	昭 27	五〇〇
20	ラヴェンソン 習慣論	野田又夫訳	昭 25	五〇〇
21	リヤー 婚姻の諸形式	木下史郎訳	昭 9	三〇〇
22	ルソオ 民約論	平林初之輔 訳	昭 25	一、〇〇〇
23	デユギー 法と国家	堀 眞琴訳	昭 15	三〇〇
24	イエリネク 法・不法及刑罰の	大森英太郎訳	昭 13	三〇〇
25	スピノザ 往復書簡集	畠中尚志訳	昭 51	一、〇〇〇
26	ルクセンブルク 経済学入門	岡崎他訳	昭 53	一、〇〇〇
27	ラスキン 芸術経済論	西本正美訳	昭 2	一、〇〇〇
28	リカドオ 経済学及課税の原理	小泉信三訳	昭 3	一、〇〇〇

29	ロドベルトウス	地代論	山口正吾訳	昭 3	三、五〇〇	
30	バジョット	ロンバート街	宇野弘蔵訳	昭 16	二、五〇〇	
31	ヴェブレ	有閑階級の理論	小原敬士訳	昭 50	一、五〇〇	
32	リスト	農地制度論	小林 昇訳	昭 49	一、五〇〇	
33	リカドオ	農業保護政策批判	大川一司訳	昭 13	二、〇〇〇	
34	リアザノフ	マルクス・エンゲルス傳	長谷部文雄訳	昭 3	一、〇〇〇	
35	ウエーバー	社会科学方法論	富永他訳	昭 12	一、〇〇〇	
36	オウエン	新社会観	楊井克巳訳	昭 51	一、〇〇〇	
37	ソーロー	市民としての反抗	富田 彬訳	昭 49	一、〇〇〇	
38	カウツキー	ローザ・ルクセンブルクの 手紙	川口 浩訳	昭 53	一、〇〇〇	
39	アリストテレス	政治学	山本光雄訳	昭 42	一、五〇〇	
40	ジェファソン	ヴァージニア覚え書	中屋 昭訳	昭 50	一、五〇〇	
41	マルクス	フランスの内乱	木下半治訳	昭 49	八〇〇	
42	ケーペル	博士隨筆集	久保 勉訳	昭 16	一、五〇〇	
43	ルイス	本町通り	全3冊 斎藤忠利訳	昭 48	二、〇〇〇	
44	ラム	沙翁物語	野上弥生子訳	昭 25	一、五〇〇	
45	バルフィンチ	希臘羅馬神話	木下正路訳	昭 14	二、〇〇〇	
46	ジェブ	古代希臘文学総論	矢本貞幹訳	昭 13	五〇〇	
47	エリオット	文芸批評論	十一谷・三宅訳	昭 6	一、五〇〇	
48	ヘルン	東西文学評論	佛蘭西文学史序説	関根秀雄訳	昭 11	八〇〇
49	ブリュンチエール	伊太利文芸復興期	村松恒一郎訳	昭 14	二、五〇〇	
50	ブルックハルト	文学趣味	山内義雄訳	昭 18	八〇〇	
51	ベネット	文芸批評	小松 清訳	昭 15	五〇〇	
52	ムア	一青年の告白	石川 淳訳	昭 15	一、五〇〇	
53	ジイド	ソヴェト旅行記	清水幾太郎訳	昭 17	五〇〇	
54	法王廳の抜穴	大塚幸男訳	昭 25	一、〇〇〇		
55	田園交響楽	番匠谷英一訳	昭 21	八〇〇		
56	ジンメル	断想日記抄	本多顯彰訳	昭 13	一、五〇〇	
57	コンスタン	アドルフ	龍口直太郎訳	昭 15	一、〇〇〇	
58	フェルスター	アルト・ハイデルベルク	龍口直太郎訳	昭 13	一、五〇〇	
59	ゴールズワージー	静寂の宿	龍口直太郎訳	昭 13	一、五〇〇	
60	吾等がために踊れ	龍口直太郎訳	昭 13	一、五〇〇		

61	ケラー	七つの傳説	堀内 明訳	昭26	一、〇〇〇
62	恋ぶみ濫用	関 泰祐訳	昭26	一、〇〇〇	
63	ストリントベルク	稲 妻	小宮豊隆訳	昭2	一、〇〇〇
64	幽霊曲	小宮豊隆訳	昭2	一、〇〇〇	
65	テニス	イン・メモリアム	入江直祐訳	昭26	一、〇〇〇
66	ヤコブ	ジャクリヌと日本人	相良 昭訳	昭10	一、〇〇〇
67	シグ	西國の伊達男	山本修二訳	昭14	一、〇〇〇
68	ボーマルシェ	セヴィラの理髪師	進藤 昭訳	昭25	一、〇〇〇
69	シュニツラー	花	番匠谷英一訳	昭28	一、〇〇〇
70	ホイットマン詩集	草の葉	有島武郎選訳	昭34	一、〇〇〇
71	草の葉	全3冊	杉本 喬他訳	昭50	二、五〇〇
72	ウィムバー	アルプス登攀記	全2冊 浦松佐美太郎訳	昭26	二、〇〇〇
73	ブレイク	抒情詩抄	全2冊 詩岳文章訳	昭6	一、〇〇〇
74	グンドルフ	シェイクスピアと	獨逸精神 全2冊 竹内敏雄訳	昭17	二、五〇〇
75	那珂通世	支那通史 全3冊	和田 清訳	昭50	二、五〇〇
76	碧 巖 録	全3冊	朝比奈宗源 正訳	昭33	二、八〇〇
77	子 思 子	藤原 正訳	昭10	一、五〇〇	
78	入木道三部集	附本朝能書傳 岡麓校訂	昭8	一、〇〇〇	
79	澤菴和尚書簡集	辻 善之助編註	昭17	一、五〇〇	
80	禪海一瀾	今北洪川著 太田槐藏註	昭10	一、五〇〇	
81	綱島梁川集	安倍能成編	昭8	五〇〇	
82	神皇正統記	山田孝雄校訂	昭15	一、〇〇〇	
83	二宮翁夜話	福住正兄筆記 佐々木校	昭16	一、〇〇〇	
84	鳩翁道話	石川 謙校訂	昭17	一、〇〇〇	
85	新論・迪蘇篇	會 譯 塚本 訳	昭16	一、〇〇〇	
86	明治天皇御集	宮内省藏版	昭20	一、五〇〇	
87	藤原定家歌集	附年 講 佐々木信綱校訂	昭6	二、〇〇〇	
88	新葉和歌集(表紙少痛)	岩佐正校訂	昭18	一、〇〇〇	
89	武道伝来記	井原西鶴作 横山他校訂	昭52	二、〇〇〇	
90	鴉 衣	石田元季校訂	昭5	一、五〇〇	
91	杉浦重剛座談録	猪狩史山他著	昭16	一、五〇〇	
92	雨月物語	(表紙少痛) 上田秋成作	昭23	五〇〇	
93	西鶴諸国咄	本朝松陰比事 井原西鶴作	昭10	八〇〇	
94	農業全書	宮崎安員編録 土屋喬雄校	昭52	一、五〇〇	

品切・絶版文庫のハンパを多く在庫しております。
ご購入の方、おハガキでのご照会下さい。

品切・絶版文庫のハンパを多く在庫しております。
ご入用の方、おハガキでござ照会下さい。

電話(〇七五) 七二一七二四八
振替 京都 〇一八三六

〒606 京都市左京区田中大久保町22
(東大路叡電交差北)

電話(〇七五) 七二一七二四八
振替 京都 〇一八三六

- 三密堂書店

電話(〇七五)三五二九六六
振替 京都 四一三四七一

（今回は易学特集）

- 福田屋書店

電話 (〇七五) 七八一—二二六

〒606 京都市左京区田中里ノ前町55

- | | | | | |
|----|------------------|-----------|--------|---------|
| 33 | 日本幼稚園史 | 倉橋惣三 | 臨川書店復刻 | 昭58 |
| 32 | ルソオ教育思想 | 稲富栄次郎 | | 昭27 |
| 31 | 幼児教育論 | 城戸幡太郎 | | 昭14 |
| 30 | 最近の教育哲学 | 長田新 | | 昭13 |
| 29 | 教授原典 | 篠原助市 | | 昭17 |
| 28 | 教育の本質と教育学 | 篠原助市 | | 昭5 |
| 27 | 現代教育学汎論 | 乙竹岩造 | | 昭12 |
| 26 | 大日本教育通史 | 辻幸三郎 | 目黒書店 | 昭16 |
| 25 | 紙（日本の工芸） | 寿岳文章他淡文社 | | 昭41 |
| 24 | 和印刷書誌史料辞典 | 日本印刷学会 | 春陽堂 | 昭24 |
| 23 | 印刷読本 | 紙山幸男 | 関義城 | 昭17 |
| 22 | 古今紙漉紙屋図説 | 東雲文庫 | 宝雲舎 | 昭50 |
| 21 | 古筆の見方 | 相沢春洋 | | 昭17 |
| 20 | 書道文庫 | 東京美術学校図書部 | アトリエ社 | 昭14各一五〇 |
| 19 | 坪内逍遙会津八十一往復書簡 | 柳田泉編 | | 昭43 |
| 18 | 英明清画家印鑑 | 王季遷 | 香港大学 | 昭57 |
| 17 | 三十六人家集と久能寺経 | 博覧館 | | 昭28 |
| 16 | 京都府草木志 | 竹内敬 | 箱根 | 昭6 |
| 15 | 京都市資料所所在目録 | 宗藤三三 | | 昭43 |
| 14 | 伝統産業の近代化 | 黒松巖 | | 昭40 |
| 13 | 西陣機業の研究 | 初瀬竜平 | | 昭55 |
| 12 | 佐々井信太郎 | | | 昭16 |
| 11 | 中世と近世のイスラーム宗教文化史 | 石橋智信 | | 大14 |
| 10 | 二尊菩薩研究 | 佐々井信太郎 | | 昭56 |
| 9 | メキシコ植民地史 | 蘭学資料及書 | ③ | 昭59 |
| 8 | 平安時代医学の研究 | 服部敏良 | | 昭59 |
| 7 | 奈良時代医学の研究 | 服部敏良 | | 昭59 |
| 6 | 漢書伝記資料の研究 | 青史社 | | 昭55 |
| 5 | 日本儒医研究 | 安西安周 | | 昭56 |
| 4 | 中国古史植物志の研究 | 水上静夫 | | 昭52 |
| 3 | 考古学資料目録 | 全三冊 | 京大文学部 | 昭35 |
| 2 | 考古学資料目録 | 全三冊 | 京大文学部 | 昭35 |
| 1 | 漢書傳記資料の研究 | 水上静夫 | | 昭52 |

キク才書店

京都市中京区河原町通三条上ル
(朝日会館前)

電話(〇七五) 二三一七六三四
振替 京都 八一七六四〇

学術論文抜刷特集(出典・著者など詳しい事はお尋ね下さい)

- | | | | | |
|----|------------------------|----------|------|-------|
| 1 | 日本資本主義文獻解説 | 細川嘉六 | 昭和8 | 1,000 |
| 2 | 明治財政・経済文獻 | 大内・土屋 | 昭和12 | 1,3各六 |
| 3 | 支那経済文獻(邦語論文篇) | 宮本又次 | 昭和8 | 一五〇〇 |
| 4 | 真福寺善本展覧会目録 | 大阪府立図書館 | 昭和14 | 一五〇〇 |
| 5 | 三瀬淵先生遺品・文獻目録 | 松山高商 | 昭和10 | 一五〇〇 |
| 6 | 内閣文庫所蔵の冊元龜の刊本と写本 | 井田 陸 | 昭和10 | 一八〇〇 |
| 7 | 宋会要と宋代の出版法 | 改造社 | 昭和13 | 一,〇〇〇 |
| 8 | 日本文学講座月報(2) (17) | 春陽堂 | 昭和8 | 一,〇〇〇 |
| 9 | 上代日本文学講座月報(1) (4) | 春陽堂 | 昭和8 | 一,〇〇〇 |
| 10 | 萬葉集講座月報(1) (6) | 春陽堂 | 昭和8 | 一,〇〇〇 |
| 11 | 郷土史家名簿 | 日本経済史研究所 | 昭和9 | 一,〇〇〇 |
| 12 | 樺太及北海道 | 本庄栄治郎 | 昭和13 | 一,〇〇〇 |
| 13 | 英国植民地統治法の發達に就て | 江木翼 | 昭和7 | 一,五〇〇 |
| 14 | 英国の縣と縣会の制度 | 小川市太郎 | 昭和3 | 一,八〇〇 |
| 15 | 英國救済の研究 | 小島幸治 | 昭和8 | 一,八〇〇 |
| 16 | 資本主義経済理論 | 柴田 敬 | 昭和15 | 一,五〇〇 |
| 17 | 国體と国家形態 | 八條隆孟 | 昭和16 | 一,五〇〇 |
| 18 | 行政事務再配分に関する資料 | 神戸市 | 昭和25 | 一,三〇〇 |
| 19 | 純粹封建制成立における農民闘争 | 廣島県経済部 | 昭和24 | 一,二〇〇 |
| 20 | 農村経済更生の策 | 遠藤正男 | 昭和11 | 一,二〇〇 |
| 21 | 豊村時代の炭坑労働者 | 遠藤正男 | 昭和11 | 一,二〇〇 |
| 22 | 銀山に於ける近代的労働者の萌芽 | 遠藤 正 | 昭和11 | 一,二〇〇 |
| 23 | 高島炭坑に見る明治前期の視方制度の実態 | | 昭和30 | 一,二〇〇 |
| 24 | わが国産業労働における封建性と近代性との交錯 | | 昭和26 | 一,五〇〇 |
| 25 | 大阪足袋同業組合沿革史(1) (2) | 宮本又次 | 昭和9 | 一,三〇〇 |
| 26 | 信楽陶業に於ける経営及支配形態の変遷 | | 昭和10 | 一,三〇〇 |
| 27 | 薩摩陶磁伝統誌 | 島津家臨時編輯所 | 昭和15 | 一,五〇〇 |
| 28 | 薩摩陶磁伝統誌 | 島津家臨時編輯所 | 昭和15 | 一,五〇〇 |
| 29 | 上知問題 | 阿部真琴 | 昭和9 | 一,三〇〇 |
| 30 | 明治初年に於ける農書 | 津下 剛 | 昭和15 | 一,四〇〇 |
| 31 | 明治紙幣年表 | | 昭和15 | 一,五〇〇 |
| 32 | 吉川元春元長両公の御事蹟 | 瀬川秀雄 | 昭和12 | 一,八〇〇 |

- | | | | |
|----|------------------------|----------------------|-------------------------|
| 33 | 五石説の起源及び發達 | 橋本増吉 | 昭和6 |
| 34 | 官吏支配と國家的土地所有 | 平澤巳之吉 | 昭和9 |
| 35 | 李朝時代郷約の歴史と性格 | 四郎 博 | 昭和24 |
| 36 | 日支交通の資料的考察(隋唐交通篇) | 昭和5 | 昭和19 |
| 37 | 泰西科学の摂取及其展開 | 桑本或雄 | 昭和15 |
| 38 | 欧米に於ける日本学研究につき | 本庄 | 昭和13 |
| 39 | 松前のあたつた研究 | 賀川英夫 | 昭和15 |
| 40 | 西宮の体感公害についての研究 | 昭和56 | 昭和15 |
| 41 | 石門心学の社会基盤 | 三冊揃 竹中靖一 | 昭和31 |
| 42 | 心学道話に現はれた社会経済思想 | 竹中 | 昭和18 |
| 43 | 嗚呼砲戰四訓書(室戸台風) | 京都府 | 昭和9 |
| 44 | 銅鐸の化学写真集(1)(1)(17) | 江馬務 芝柳治 | 昭和7 |
| 45 | 鋼鐸の化学成分に就いて | 梅原末治 | 昭和14 |
| 46 | 石燈図版(二十五種) | 天沼優一 | 昭和3 |
| 47 | 古美術鑑賞の手引 絵画・彫刻の部(二冊) | 昭和41 | 昭和15 |
| 48 | 分売各冊八〇〇〇円 | 地制制度研究の發達(上田) | 〇家領の研究(江藤恒次) |
| 49 | 〇近世の町方奉公人と賃勞働(遠藤正男) | 〇農村の工業指針(広島県) | 〇警察制度の沿革(大阪市) |
| 50 | 〇警察制度の沿革(大阪市) | 〇日支文化關係史(三木清) | 〇近世以前に於ける我が對外貿易の展開(江頭) |
| | 〇歴史の京都(林屋・奈良本) | 〇京都府小学校会社の仕法に就て(寺尾宏) | 〇比叡山植物調査報告(四手井他) |
| | 〇出雲の神樂(石塚尊俊) | 分売各冊七〇〇〇円 | 〇交易の原始形態(柳田国男) |
| | 〇〇上代に於ける日華交通と文化の關係(下) | 〇水野梅曉 | 〇兵庫開港と商社の設立(楠木孝) |
| | 〇日蘭会商の諸問題(谷口吉彦) | 佐田介石の舶来品排斥の思想と運動 | 本庄 |
| | 〇草創期に於るアメリカ産業資本に就て | 岡部直祐 | 〇先覚者の南方経営(本庄) |
| | 〇坪井先生の歴史地理学と南洋史学 | 経済史研究を思ふ(柴) | 〇字和島藩財政經濟の發展(賀川英夫) |
| | 〇宇藩經濟辨(若松常範) | 〇米沢藩の荒政(上田藤十郎) | 〇他 |
| | 〇織田信長の但馬經略と今井宗久(永島福太郎) | 〇金貨時代の手形(菅野和太郎) | 〇大阪に於ける青蓮院名目金貨について(寺尾宏) |
| | 〇明治大正年間の大阪の工業(堀江保蔵) | 〇古典古代に於る農耕的と商工的(宮本) | 〇役資貸貸借の研究(原伝) |
| | 〇山陰に於る藤布の技術伝承 | 〇蠶毒の源流とその伝播(瀧 | |

- 51
- 川政次郎)○明治時代の競馬(津下)○雲助・ごまのはひ(津下)○下人考(江頭)○妖怪研究の結果(井上円了)○滋賀県宗門史考(長岡京の新研究(小林清)
- 分売各冊五〇〇円○日本経済史研究の発展・他(本庄)○平安朝の経済生活(堀江)○江戸時代への価格論(東晋太郎)○徳川時代の勤儉節約(預金部)○徳川時代に於ける生産力拡充政策(近世金部)○株仲間精神に就いて○我國近世の商人意識(近世の村落と商業)○近江商人の店制に就いて(以上、宮本又次)○絲荷通船考(黒羽兵治郎)○柏原船に就いて(黒羽)○横山由清(三種時雄)○佐藤信淵の巡察記(本庄)○尊徳二宮先生○明治時代最初の農書○農史旅行日誌○農史探訪旅日記○農史探訪九州旅行(以上、津下剛)○近江土木地方の分割(原田)○明治十一年の地方税規則に就いて(明治初期に於ける区市町村費徴収權の發展)○我々町村税制の本来的性格に就いて○民費の研究(以上、藤田武夫)○人口吸収層としての商業階級(谷口吉彦)○外国資本主義侵入に対する積極的對抗策○我國に於る最初の紙幣と大阪商人○明治初年大阪の衰頹(以上、菅野和太郎)○大阪市街地と地租改正・他(黒羽)○大阪市民の消費生活(沙見三郎)○大阪の文化と造幣局(本庄)○特別市制に関する地方制度調査會審議經過○大阪市民と特別市制○大阪特別市制に関する諸問題○特別市制と学校教育○特別市制と公衆衛生(以上、大阪市特別市制叢書)○選挙運動解説(内務省警保局)電気事業を七分劃したら関西はどうなるか(日本放送電報)○名古屋に於ける染色及整理業の發達(堀江)○織豊兩氏の都市支配(永島福太郎)○建武中興と皇室領(楠氏一門の教養)○中世武士社会の女性(石田三成の民政(以上、中村嘉梧)○幕藩体制社会の分析理論(山雅)○明治維新(藤井善太郎)○歴史学上に於ける同和问题(瀧川政次郎)○儒教思想と政治問題とに關する史的考察(市村瓚次郎)○石川梅嶽の經濟思想○石門心學に於ける經濟思想○石田梅岩の生涯と學問○大阪町人の學問と心學○町人意識と石門心學(以上、竹中靖一)○梵鐘講演資料(何崎顯了)○大日本地域構造(高木真助)○ポツダム宣言下の民主主義(市川泰次郎)○新支那の指導精神(宇野哲人)○支那の共和政治の成立及び建設(矢野仁一)○支那トルキスタンの政治地理的構造(岩根保重)○支那鉅物資源の量と意義(菊出太郎)

〒604 京都市中京区丸太町通千本西入南側

八木書店古書部

電話(〇七五) 八二一三八九〇

1	竹内柄原筆 扇子 一本 竹之図	三〇〇〇
2	柴田九峰筆俳句草稿一紙北村九起門近江生糸商	五〇〇〇
3	木版峯山画 手描友禪染風景一紙17cm 23cm 明治	三〇〇〇
4	田中杜鴻筆 俳句草稿一紙 大阪人 文久頃	五〇〇〇
5	東福寺涅槃像 応永15兆殿司画 墨摺一紙	五〇〇〇
6	扇面村瀬香峽筆 加藤肥後侯像賛七言妙法蓮華詩	五〇〇〇
7	扇面舞坂宇津山景色一紙 肉筆 筆者不詳	三〇〇〇
8	扇面錦鹿風景 肉筆 紙筆者不詳	三〇〇〇
9	刀鐔鑑定安綱雄安折本附解説一紙 江戸初	三〇〇〇
10	地球地図一紙日溪蘭蘭蔵版一紙一部虫傷大保11	五〇〇〇
11	木版東春九重錦2枚統宮中御歌短冊に古く風景 明初	八〇〇〇
12	御觸書一紙松平伊豆守御事連判井公方様姫君様結納	三〇〇〇
13	木版画広重画 神奈川横浜一覽2枚統 汚明初	五〇〇〇
14	九段靖国神社大祭之光景両階下御観拝図一枚 大正	三〇〇〇
15	木版画 豊国画 歌沢双六6枚 汚 江戸末	三〇〇〇
16	僧南谷筆一枚京都六孫王大通寺中興之祖名昭什傷有	八〇〇〇
17	扇面大和絵一枚 肉筆 宮殿中 磨之図江戸中	二五〇〇
18	明治天皇御大葬儀桃山御着華之図一紙小傷 大元	三〇〇〇
19	即位禮紫宸殿御儀の図 楠谷謙画 刷物一紙 昭3	二〇〇〇
20	太宰大貳除服出仕後任右宣下候行政官書状一紙	二〇〇〇
21	木版豊寛画秀吉勝家大徳寺前對決之図2枚統 明16	八〇〇〇
22	木版出雲國肥河上八蛇蛇取取図3枚統南延画	二五〇〇
23	倭漢關智勇賢并備高名集相撲見立番附3紙書写	八〇〇〇
24	鎌倉二位尼公觀音菩薩像并縁起一紙 墨摺	二〇〇〇
25	大和絵宮崎嶺野に姫を尋ね給ふ図一枚肉筆扇面	二五〇〇
26	漢詩横物断簡一紙八行 文明5	二五〇〇
27	文晁画 魚之図 一紙 扇面画	三〇〇〇
28	木版假名手本忠臣蔵 12枚統 國貞画 江戸末	三〇〇〇
29	江州蒲生郡津田村酒造様讓渡一札之事 紙 嘉永元	二〇〇〇
30	木版画 月夜の二曲 3枚統 周延画	二五〇〇
31	市河米庵筆 書狀一通名玄通稱小左衛門虫入	五〇〇〇
32	茶道 當の心に就て 白春庵筆 紙めくり 江戸末	五〇〇〇
33	廊照和尚筆 めくり 5紙 汚傷物 室町期	八〇〇〇
34	源氏物語に関する目錄38点 宮中寛書めくり一紙	三〇〇〇
35	土佐守朽木綱方奏書長歌并反歌宮中詠進歌 文政13	五〇〇〇
36	逆札之式精進之事月代之事御下問に奏上郡司筆めくり	三〇〇〇
37	上皇執政に就て誰而奉申上候概用作石衛門筆めくり	三〇〇〇
38	宮中獻上上卿等之上紙 紙閣播磨守松平右京亮各一枚	二五〇〇
39	加藤越中守本庄安雲守西尾隠岐守松平右京亮各一枚	二五〇〇
40	板倉伊豫守秋元但馬守諏訪若狹守 各一枚	二五〇〇
41	織田丹後守松平和泉守鍋島伊予守堀田紀伊守 各一枚	二五〇〇
42	御馬一疋 藤堂和泉守 伊達大膳太夫 各一枚	二五〇〇
43	詠進歌方 春日詠初春祝道 和歌寸法書 紙 江戸末	二〇〇〇
44	御懷紙紙紙は越前小鷹檜紙一枚候御重ね不及候一紙	二〇〇〇
45	富小路 位永則卿筆かしく 一行3字 幅 室町期	三〇〇〇
46	文享釋書 15冊30卷揃 一部虫入 寛永元	八〇〇〇
47	通俗武王軍談 20冊揃 大坂播磨屋版 宝永2	一五〇〇
48	指月録 一 30巻10冊 卷312欠 虫入傷 崇禎3	五〇〇〇
49	宮離形 一之巻 虫入 江戸中	三〇〇〇
50	増補大匠離形巻一 宮殿部 江戸中	五〇〇〇
51	数奇屋工法集 下 貞享3	五〇〇〇
52	庭造屋 上巻 北村授琴 享保20	五〇〇〇
53	築山庭造伝 後篇下 秋里 文政10	五〇〇〇
54	築山山水石組園生八重垣新選庭作伝下巻 文政10	三〇〇〇
55	蟠桃篇奉寿 詩 10篇10氏筆一卷 宝曆9	五〇〇〇
56	慶応3 12月中京都布会書町奉行所廃止10丁 明治初	三〇〇〇
57	算法地方大成 三四2冊 明治初	二〇〇〇
58	青少年軍事訓練教程下巻 栗原大佐編 背傷 明治初	二五〇〇
59	步兵操典第3編 中隊操典 和木 明治初	二五〇〇
60	等心院興隆和南筆八言講大經意因賦標葉紫金蓮一編 八〇〇〇	八〇〇〇
61	信心銘夜塘水 濃州恒山和尚撰 後刷 寛政2	三〇〇〇
62	首書四部録信心銘道歌十牛図坐禪儀 明9	二五〇〇
63	永平元禪師清規 乾坤2冊 明16	二五〇〇
64	首書増補 大智禪師傳 文政3	二〇〇〇
65	永平家訓 祖師綱要上下合本 瑞方輯 元文4	二〇〇〇
66	天童寛和尚頌古報思老人著語 上下2冊 明9	二〇〇〇
67	禪僧韻集 上下合本 孝嚴和尚輯 後刷 文化11	二〇〇〇
68	禪僧韻集 上下合本 芝山和尚輯 後刷 天保6	二〇〇〇
69	印度に於ける國民的運動現狀及其由來大田高明 大5	二五〇〇
70	鳴々マンダレーの平比羅派遣警察部隊非完品 昭41	二〇〇〇
71	中富島九郎 上下2冊 元内務大臣 新完品 昭19	二〇〇〇
72	富山県人 富山県人社刊 一ヶ年分 昭41	三〇〇〇
73	公民教育大系 文部省普通学務局編 初版 昭7	五〇〇〇
74	支那神話伝説の研究 出石誠彦 初版 大10	二〇〇〇
75	京都駅前豆仁組本店廣告一紙 寅年 昭18	二〇〇〇
76	木版画明画弁天小僧南郷力丸2枚馬込四木屋版 明35	三〇〇〇
77	吉良城中留守居之者城中様子相慌し吉良文書一通 五〇〇〇	五〇〇〇
78	明治天皇最後の觀兵式 印刷 一枚 文政4	二〇〇〇
79	節婦之碑本一紙中妻八代田中村中陽 柳書 明和4	三〇〇〇
80	寝惚先生詩集 風来山人著 明和4	三〇〇〇
81	精選料理 素人抱丁三編 末尾一丁欠 文政3	八〇〇〇
82	フックス秘画集 限定500部 背傷物完全独逸刊 文政2	三〇〇〇
83	幕天社俳諧集 室町一条橋仙堂刊 文政2	三〇〇〇
84	日本工業要鑑 工業之日本社刊 昭16	二〇〇〇
85	開花浪花みやげ 13 15欠 明9	五〇〇〇
86	芝居 題上下2冊製本澤正等東京各座プログラム 大14	八〇〇〇
87	映画批評昭32 34并映画文化復刊2 3 冊製本 昭29	八〇〇〇
88	子室 早道童子室 草双紙本 江戸末	八〇〇〇
89	詩歌連俳書函会 於名古屋南寺町大連寺 慶応元	三〇〇〇
90	請雨降法秘伝等略記 2冊 写本 虫入 弘安2	二五〇〇
91	女教訓身侍鏡 絵入 虫入傷有 文政8	二〇〇〇
92	京都府下俳家人名録 岸田橋處 明17	二五〇〇
93	和州宇陀郡石田村代官所年貢清済借付狀一紙 文政13	三〇〇〇
94	唐衣橋州軍歌一紙狂歌三大家 淀藩士 享和2没	二〇〇〇
95	西山芳園筆武符草稿図一紙大阪四条派画 慶応3没	五〇〇〇
96	長三州筆 書狀一通 杉聴雨宛 慶応3	二五〇〇
97	袖珍武鑑 慶応3	二五〇〇
98	松平縫殿頭女露子5才死去遺歌一紙墨摺 安政6	八〇〇〇
99	芭蕉堂 代笑句集秋冬令本闕更替蛇千崖 二五〇〇	二五〇〇
100	松花堂筆 七言詩14字 一幅 二五〇〇	二五〇〇
101	京師風俗雜圖菊松老写墨摺一幅俳人定雅外句入り 八〇〇〇	八〇〇〇
102	芭蕉翁桃青馬に寝て道のべ2句前詞入一幅 二五〇〇	二五〇〇
103	法華經信心開運大黒福墨摺一幅京寿福寺 五〇〇〇	五〇〇〇
104	天龍寺関精拙老師筆 詩附 一幅 昭6	二五〇〇
105	菊地契月先生筆 椿之図 一幅 小品 二五〇〇	二五〇〇
106	奥平大膳亮昌能書狀 大虫入一幅 三〇〇〇	三〇〇〇
107	堀江春壽筆 石清水八幡宮之図一幅 五〇〇〇	五〇〇〇
108	前田玄以筆 消息一幅 松并進上云々 二〇〇〇	二〇〇〇
109	山岡鉄舟先生筆 行詩一幅 二〇〇〇	二〇〇〇
110	高橋泥舟居士画賛 一幅 行詩一幅 二〇〇〇	二〇〇〇

〒602 京都市上京区烏丸通り上御霊前下ル
上御霊前町四二二

萩 書 房

電話(〇七五) 四二一三二二
振替 京都 八一四三六

週刊朝日特別號(附録ナシ)

- 1 夏期特別號(七月) 表紙杉浦非水「ヴェニス」の宵月 大11 二五〇〇
- 2 秋季特別號(八月) 表紙 亀高文子作 大11 二〇〇〇
- 3 新年特別號(3卷1號) 表紙 杉浦非水「日の出」 大12 二〇〇〇
- 4 夏季特別號 創作隨筆「このへじ」表紙水島剛保作 大12 二〇〇〇
- 5 十月増刊(通巻89號) 表紙 本田庄太郎「秋の階調」 大12 一八〇〇
- 6 十一月増刊(通巻90號) 表紙 喜新「紅の秋」 大12 二〇〇〇
- 7 新年特別號(5卷1號) 表紙 田中良「鶏鳴」 大13 二〇〇〇
- 8 春季特別號(5卷1號) 表紙 古家新「花つぶて」 大13 二〇〇〇
- 9 夏季特別號 涼味と怪談表紙甲斐莊博「シャボン」 大13 二〇〇〇
- 10 秋季特別號 6卷15號) 表紙 表紙 奈良倉蔵「菊」 大13 二〇〇〇
- 11 春季特別號 百花爛漫號 表紙 高橋成徳「さくら」 大14 二〇〇〇
- 12 夏季特別號 涼風號 表紙 樋口富磨「夕がほ」 大14 二〇〇〇
- 13 秋季特別號 特別増刊號 表紙 太田二郎「タリヤ」 大14 二〇〇〇
- 14 新年特別號(9卷1號) 表紙 木谷千種「乙女の姿」 大15 二〇〇〇
- 15 春季特別號(9卷15號) 表紙 島成園「やまひ」 大15 二〇〇〇

日本精神叢書 八〇〇円均一

- 〇歴代の詔勅・河野省三昭17〇神楽・神歌・志田延義昭18
- 〇親鸞と日本佛教・小野正康昭17〇心學精神・石川謙昭18
- 〇萬葉集と國民性・武田祐吉昭17〇萬葉精神・鴻巣茂廣昭17
- 〇萬葉集と忠君愛國・武田祐吉昭17〇日本書紀と日本精神
- 武田祐吉昭18〇漢詩と日本精神・鹽谷温昭15〇芭蕉と俳諧
- 〇精神・志田義秀昭18〇謡曲と日本精神・佐成謙太郎昭17
- 〇庭園と日本精神・龍居松之助昭15〇國學と王さま久
- 松潜一昭15〇幕末勤皇歌人集・志田延義昭19〇二宮翁夜話
- 〇精神・佐々井信太郎昭17〇佐久間象山の省費録・飯島忠
- 夫昭15〇頼山陽と日本精神・鹽谷温昭17〇吉田松陰講義餘
- 話・廣瀬豊昭16〇翁問答と日本教育論・海後宗臣昭19〇世
- 阿彌と其の藝術思想・野上豊一郎昭15〇奈良時代に於ける
- 國家と宗教・辻善之助昭15〇三經義疏と日本佛教・金子大
- 栄昭15〇日蓮と日本の佛教・小林一郎昭15〇佛教・弘法と
- 日本文化・金子大栄昭17〇法然と日本文化・椎尾辨圓昭16
- 〇大仏師運慶・丸尾彰三郎昭15〇直毘藏一神の道とやまと
- 心・安藤正次昭17

〒606 京都市左京区一乗寺塚本町106の2
白川ビル1F

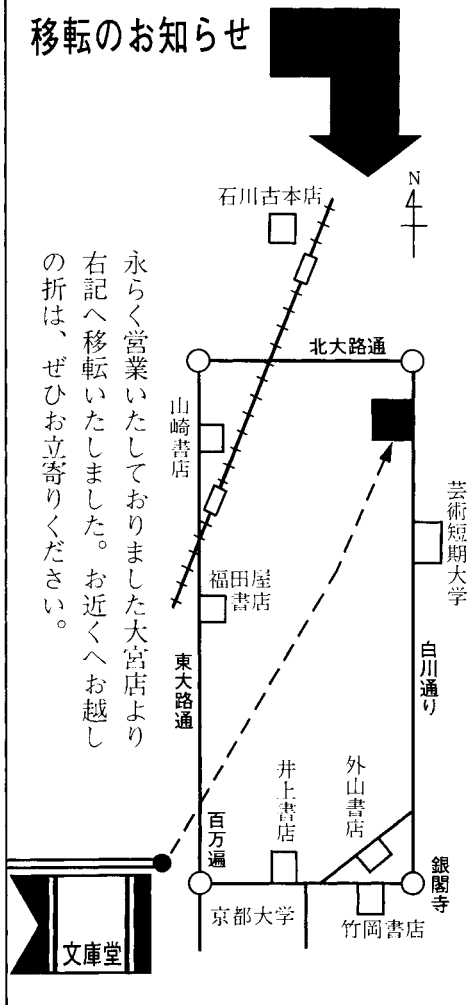
文 庫 堂

電話(〇七五) 七二二四四四九

- 1 五山版の研究 全二冊 川瀬一馬 昭45 二六〇〇
- 2 金沢文庫本の研究 関靖・熊原政男 昭56 二六〇〇
- 3 絵本の研究 仲田勝之助 八潮書店 昭52 二〇〇〇
- 4 日本書畫骨董大辭典 池田常太郎 復刻 昭54 三〇〇〇
- 5 神社名鑑 神社本庁 昭37 二五〇〇
- 6 神社名鑑 編輯資料集成改正 統 京大人文研 昭45 二五〇〇
- 7 京都大学人文科学研究所漢籍目録 全2冊 昭49 二〇〇〇
- 8 元史語彙集成 全3冊 中巻改裝 人文研 昭36 二〇〇〇
- 9 中国隨筆索引 思文閣 昭47 二六〇〇
- 10 京都大学人文科学研究所蔵甲骨文字索引 昭43 二八〇〇
- 11 甲骨文編 考古學專刊乙種第十四号 昭40 二八〇〇
- 12 恒原 図版第52図逆綴 奈良學教育委員会 昭38 二五〇〇
- 13 長崎洋学史 全3冊 古賀上二郎 昭46 二五〇〇
- 14 長崎洋学史 全3冊 古賀上二郎 昭46 二五〇〇
- 15 長崎洋学史 全3冊 古賀上二郎 昭46 二五〇〇
- 16 奥丹後震災史 改裝 京都府 昭3 二五〇〇
- 17 日本震災凶饑致 權藤成卿 昭7 二五〇〇
- 18 近世在郷商人の經營史 足立政男 昭30 二六〇〇
- 19 巨椋池干拓誌 巨椋池土地改良区 昭37 二〇〇〇
- 20 日本蚕糸業史 全5冊 一冊表紙濕 昭10 二〇〇〇
- 21 西陣史 佐々木信三郎 元版 昭7 二五〇〇
- 22 増補 京染の秘訣 高橋新六 京都書院 昭48 二〇〇〇
- 23 宮崎有輝齋と近世の模倣染 明石染人編 昭28 二〇〇〇
- 24 近代友輝史 友輝協會編 印消 昭2 二五〇〇
- 25 友輝寛之書 岩原俊 特製55部 昭51 二五〇〇
- 26 和装小物の史実 高島与一郎 昭39 二六〇〇
- 27 西陣美と伝統 西陣五百周年纪念事業協議會 昭44 二五〇〇
- 28 日本草木染譜 永遠版映入 山崎斌 昭36 二六〇〇
- 29 日本色名大鑑 上村六郎・山崎勝弘 昭18 二六〇〇
- 30 阿波藍染沿革史 西野嘉右衛門編 養徳社 昭25 二六〇〇
- 31 岐阜県手漉和紙沿革史 森義一 昭21 二〇〇〇
- 32 和紙稀覯文獻集 光彩社復刻 昭4 二〇〇〇
- 33 日本風俗画大成 全10冊 中央美術社 昭4 二〇〇〇
- 34 日本衣服史 永島信子 元版函欠 昭4 二〇〇〇
- 35 日本初期洋風版画集 海外版 第一書房 昭15 二五〇〇
- 36 日本初期洋風版画集 海外版 第一書房 昭15 二五〇〇

移転のお知らせ

永らく営業いたしておりました大宮店より
右記へ移転いたしました。お近くへお越し
の折は、ぜひお立寄りください。



〒604 京都市中京区河原町通六角下ル

赤尾照文堂

電話(〇七五)二二二一五八八
振替 京都 五一三三二一六

33	カンデイド	ヴォルテール	池田 薫	昭12	一、八〇〇
32	詩と詩論	ヴァレリーの作品	厚生書房	昭58	四、五〇〇
31	詩と詩論	ヴァレリーの研究	冬至書房	昭58	四、五〇〇
30	詩と詩論	ヴァレリーの研究	冬至書房	昭58	四、五〇〇
29	詩と詩論	ヴァレリーの研究	中央公論	昭54	六、八〇〇
28	詩人ヴィヨ	鈴木信太郎	岩波書店	昭58	三、五〇〇
27	生れた土地	アルラン	佐藤 一男	昭46	二、五〇〇
26	精神と情熱	アルラン	佐藤 一男	昭15	二、五〇〇
25	フランスの起床ラッパ	アラン	小林 秀雄	昭36	一、八〇〇
24	現実世界	全5冊 アラン	関 義	昭26	八、五〇〇
23	ガランチュウワ大年代記	渡辺 一夫	清和書店	昭23	二、五〇〇
22	フランス革命史	全6冊	柳田 泉	昭24	五、〇〇〇
21	フランス革命史	全6冊	柳田 泉	昭24	五、〇〇〇
20	フランス革命史	全6冊	柳田 泉	昭24	五、〇〇〇
19	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
18	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
17	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
16	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
15	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
14	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
13	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
12	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
11	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
10	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
9	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
8	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
7	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
6	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
5	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
4	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
3	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
2	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
1	現代フランス思想	森有正他	白水社	昭25	一、〇〇〇
34	人生斜断記	エーメ	鈴木松子	昭17	二、八〇〇
35	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
36	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
37	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
38	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
39	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
40	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
41	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
42	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
43	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
44	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
45	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
46	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
47	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
48	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
49	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
50	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
51	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
52	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
53	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
54	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
55	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
56	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
57	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
58	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
59	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
60	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
61	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
62	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
63	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
64	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
65	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
66	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
67	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
68	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
69	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
70	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
71	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
72	アルベール・カミュ	丸山 薫	白水社	昭14	八、〇〇〇
73	覚書と随想	ブーヴ	守 操	昭23	三、〇〇〇
74	十七世紀作家論	ブーヴ	ブーヴ選集(一)	昭23	七、五〇〇
75	中世及び十六世紀作家論	ブーヴ	ブーヴ選集(二)	昭22	五、八〇〇
76	モンテーニュ小論	ブーヴ	渡辺 一夫	昭14	二、五〇〇
77	アンブローズ・ピアース	フランク	西川 正身	昭16	二、五〇〇
78	紫水晶の指輪	フランク	杉 捷夫	昭14	二、五〇〇
79	神々は渴く	フランク	山内 義雄	昭16	二、五〇〇
80	ブルースト研究	復刻 全四冊	水野 成夫	昭21	一、〇〇〇
81	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭60	二、〇〇〇
82	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
83	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
84	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
85	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
86	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
87	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
88	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
89	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
90	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
91	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
92	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
93	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
94	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
95	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
96	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
97	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
98	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
99	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
100	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
101	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
102	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
103	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
104	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
105	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
106	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
107	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
108	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
109	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
110	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇
111	ブルースト研究	復刻 全四冊	大空社	昭34	六、八〇〇

各界からの強い御要望に応え、補訂版を加えて来春増刷!!

廣文庫

全20冊 付・補訂版1
A5判・上製・函入り 総22,000頁

物集高見 共著
物集高量

予約特価 220,000円 (昭和61年4月末迄) <55,000円×4回>

※一時払の場合は200,000円で承ります。(お支払いは第1回配本時)

定価 240,000円

ご注文は直接当会へ

03(724)8031

〒152 目黒区平町1-16-6

内容見本請求(F.O.係)

名著普及会

群書索引 物集高見・物集高量編 全3冊	30,000円
新校群書類従解題集 名著普及会研究開発部編 全1冊	16,000円
群書類従索引 塙保己一編纂 川俣馨一増訂再編 全2冊	22,000円
系図文献資料総覧 丸山浩一編 全1冊	18,000円
対訳源氏物語講話 島津久基著 全6冊	33,000円
増注源氏物語湖月抄 北村季吟著 全3冊	34,000円
戯曲小説近世作家大観 鈴木行三編 全1冊	12,000円
語源辞典東雅 新井白石著 全1冊	14,000円
日本語源 賀茂百樹著 全1冊	20,000円

目でみる

明治時代

国書刊行会編／江戸期の情緒とモダンな空気が混在した明治の風俗を目でみて体感。全3巻・各八八〇〇円

目でみる

江戸時代

国書刊行会編／江戸の風情と情緒を余すところなく一流絵師の流麗な画で紹介する。全2巻・各八八〇〇円

目でみる

江戸をどり百番

国書刊行会編／華やかに咲き誇る江戸芸能の粋・歌舞伎踊りの数々を流麗な画で今に伝える。八五〇〇円

目でみる

江戸職人百姿

国書刊行会編／絢爛たる江戸文化を底辺で支えたさまざまな職人たちの姿を巧みな画で描く。八五〇〇円

仏教手紙文例大事典

相馬泰全編／格調高い伝統的書式から檀信徒宛の案内状まで多数収録。寺院における挨拶手紙文を書くための文案集成。二八八〇〇円

仏教イラスト大図典

国書刊行会編／仏教に関するイラストやカットを古今の仏教画等より集大成し、内容別に分類。そのまま利用できる。一八〇〇〇円

仏像装飾持物大事典

秋山昌海著／蓮華・念珠などの持物、台座・座背などの各種荘嚴具を多数の図版や写真でわかりやすく説き明かす。一六〇〇〇円

仏像印相大事典

秋山昌海著／仏像仏画にみられる印相の唯一の解説事典。豊富な写真・図版を駆使し、経論儀軌に則して易しく解説。一九〇〇〇円

*小社の書籍は予約・注文制です
お近くの書店にお申し込み下さい

国書刊行会

〒170 東京都豊島区巢鴨3-5-18
☎03(917)8287 振替・東京5-65209

—好評既刊—

復刻版

批評

◆最も正統的な文芸批評の雑誌

自創刊号(昭和14年8月)

至復活第二号(昭和20年2月)

通巻全五十六号

「批評」同人(第一次)

吉田健一／山本健吉／伊藤信吉／西村孝次／中村光夫／平野仁啓／堀田善衛／斎藤正直／富士川英郎／西村貞二／植村鷹千代／權守操／青木照夫／寺岡峰夫／足立重／阿部六郎／浜田泰佑／芳賀檀／河上徹太郎／武田泰淳

■第一回配本(創刊号)三巻八号迄 好評発売中

■第二回配本(三巻九号)復活二号及別冊 61年2月刊

合本六冊 付解説(磯田光一) 定価七五、〇〇〇円

復刊 連歌俳諧研究自創刊号
至第四十号

俳文学会

戦後、連歌俳諧の研究は、その質的量的面に於て驚くべき進展を遂げた。本書は、その史的理解の変容、作品解釈の深化等学問的進歩の年次記録として、唯一無二の基本資料である。研究者必備の書を茲に復刻。

■体裁：A5判・背つき極上フクロ入装・函入

合本五冊・定価四五、〇〇〇円

キリシタン研究の基本資料待望の復刻

上智大学 **吉利支丹文庫** 全一冊

J・ラウレス・S・J 編・定価二〇、〇〇〇円

待望久しい兼俱・宣賢講、書紀聞書系統写本の公刊

両足院蔵 **日本書紀抄** 全一冊

伊東東慎・大塚光信・安田章編・定価一四、〇〇〇円

**臨川書店**本社 〒606 京都市左京区今出川通川端東入50m
支社 〒101 東京都千代田区神田駿河台2-11-16TEL (075)721-7111
TEL (03) 293-5021

新刊案内

(内容見本呈)

徳川黎明會叢書

全十三冊

徳川黎明會所蔵の貴重資料を、物語篇・和歌篇・古筆手鑑篇に分けて影印で公開。A5判、平均四三〇頁。

■第一回配本 **私家集・歌合** 和歌篇二 定価二一、〇〇〇円

【続刊案内】源氏物語絵巻・白描源氏物語絵詞・伊勢物語・絵巻聚成／古今和歌集／新後拾遺和歌集・八代抄／桐火桶・蓬左・霜のふり葉抄／和歌題林抄・三千首和歌・萱草・玉海／尾陽／蓬左・霜のふり葉抄・八雲／蕨叢・桃江・文庫／鳳凰台・水基・集古帖／古筆聚成／索引

室町幕府文書集成

奉行人奉書篇

今谷明・高橋康夫共編・A5判・上巻六二二頁／定価七、〇〇〇円

▼室町幕府発給の奉行人奉書四〇〇〇余通を収録した、室町時代の貴重な研究資料。上巻 南北朝時代／明応九年／奉行人一覽／花押写真集

下巻 文亀元年／永禄十一年／別篇(義材・義澄・義維奉行人奉書)

五山禪林宗派圖

B5判・四二〇頁／定価一五、〇〇〇円

▼玉村竹二著 禪宗史研究の第一人者が永年の研究成果を基にまとめた画期的な一書。【主要目次】宗派綱要(講源)／中国伝法／五山禪林宗派図(八十一項目)／関山派印証系譜／道号検索／法諱検索／道号・法諱異称対照表

住友史料叢書 年々帳 無番一番

配本

小葉田淳監修・住友修史室編集・A5判・三二八頁／定価七、五〇〇円
▼住友修史室蔵の記録文書から、重要な記録類を年々帳継続刊行。第一期全六冊。本冊には、銅貿易に関する現存最古の史料一篇を収録。**紙のふるさとを行く**

歴史の中の和紙のはなし

町田誠之著・A5判・二〇四頁／定価二、八〇〇円
飛鳥・奈良・京都の歴史的な名所六十箇所を訪ね、和紙をめぐる文化的歴史の足跡を平易に明かした案内書。関係写真多数収録。**和紙文化**町田誠之著 一手すきの紙郷 久米康生著
定価二、三〇〇円 定価二、三〇〇円**思文閣出版**京都本社 〒606 京都市左京区田中関町2-7 (075)751-1781
東京支社 〒101 東京都千代田区三崎町2-20 (03) 263-6248